

けほうーけまん

けほう(一)「外法」(名) 人の腕部を用いて行う一種の妖術、魔術は頭形の異常なるを用ふ。...



【以下法外】

けほう(二)「毛帽子」(名) 毛を飾りうる帽子。又、毛の細いものにてつくりたる帽子。...

けほう(三)「下北面」(名) 古昔、院の御所を守護せし六位の武士、武者所。...

けほう(四)「化菩薩」(名) 「佛」衆生済度のため化現したるけほう(毛彫) (名) 模様を細かく毛彫の如く彫る。...

けほう(五)「毛彫」(名) 毛彫用の細い彫刀。...

けほう(六)「毛彫」(名) 毛彫用の細い彫刀。...



【馬術】

けほう(七)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けほう(八)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けほう(九)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けほう(十)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けほう(十一)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けほう(十二)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けほう(十三)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けほう(十四)「華燈」(名) 「佛」佛前を莊嚴するに用ふる裝飾、金銀銅などにて造る。...

けもなーけやく



【さやけ】

けもな(一)「氣無」(形) けはひなし。やうすなし。見ればけもなし。...

けみーけむか

けみ(一)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(二)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(三)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(四)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(五)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(六)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(七)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(八)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(九)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(十)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(十一)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(十二)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(十三)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けみ(十四)「毛見」(名) 眉の毛を見る義、武家時代に、毎年酒作の收穫前に於て、幕府又は領主より吏員を派遣し、實地に就きて其豐凶を檢せしめし。...

けむくーけもち

けむく(一)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(二)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(三)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(四)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(五)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(六)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(七)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(八)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(九)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(十)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(十一)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(十二)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(十三)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けむく(十四)「だち」(名) けむくだつと。けばけばだち。けむくだつと。...

けらくーけり



【鳥】

けらく(一)「けり」(名) けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。...

けり-けれと

けり(動) 過去の意を表す語。「つ、れ、た」等よりは、現在に置き場合に用ふるもの。...

けれん-けん

けれん(外連二名) こまかす。まざらす。こまかし。...

けん-けん

けん(権一名) はかりのおもり。一箇。物の輕重をはかる器はかり。...

けん(一) けん(二) けん(三) けん(四) けん(五) けん(六) けん(七) けん(八) けん(九) けん(十)

けん(一) けん(二) けん(三) けん(四) けん(五) けん(六) けん(七) けん(八) けん(九) けん(十) けん(十一) けん(十二) けん(十三) けん(十四) けん(十五) けん(十六) けん(十七) けん(十八) けん(十九) けん(二十)



けん-けん

けん(一) けん(二) けん(三) けん(四) けん(五) けん(六) けん(七) けん(八) けん(九) けん(十) けん(十一) けん(十二) けん(十三) けん(十四) けん(十五) けん(十六) けん(十七) けん(十八) けん(十九) けん(二十)

けん-けん

けん(一) けん(二) けん(三) けん(四) けん(五) けん(六) けん(七) けん(八) けん(九) けん(十) けん(十一) けん(十二) けん(十三) けん(十四) けん(十五) けん(十六) けん(十七) けん(十八) けん(十九) けん(二十)

けん-けん

けん(一) けん(二) けん(三) けん(四) けん(五) けん(六) けん(七) けん(八) けん(九) けん(十) けん(十一) けん(十二) けん(十三) けん(十四) けん(十五) けん(十六) けん(十七) けん(十八) けん(十九) けん(二十)

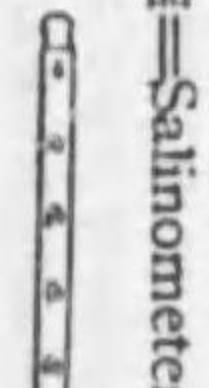
けんあーけんえ

けんあんちあち(建安七子) 建安七子其最尤なり。けんあんたい(建安七子) 建安七子の詩風、兩漢の殿後にして六朝の唱首たるもの、特殊の風格あり。



けんえーけんえ

けんえん(検査) 検査の事務を扱ふ委員。けんえん(検査) 検査の事務を扱ふ委員。けんえん(検査) 検査の事務を扱ふ委員。



けんおーけんか

けんおん(原音) Fundamental tone 理三味線などの絃の中央を弾くとき、全絃を一區として振動して發する音、即ち發音體の發し得る最低の音、音又の上部を胡弓の絃にてすり出だす音をもてこれを測る。



けんかーけんか

けんか(言下) ことばのをはるかをほらぬかの時。けんか(現下) ことばのいま。けんか(現歌) 鳴物を(さ)歌を(さ)ふ。

けんかーけんか

けんか(懸崖) 懸崖の急なるはや瀬の河。けんか(懸崖) 懸崖の急なるはや瀬の河。けんか(懸崖) 懸崖の急なるはや瀬の河。

けんかーけんか

けんか(懸隔) かけへだたりたる。けんか(懸隔) かけへだたりたる。けんか(懸隔) かけへだたりたる。



〔成阮〕

柱、管の成阮の制作といふによりて此名あり、現今演奏用のものは、八角の花形をなしたる形に棒を附け四柱十柱なり。



〔二〕關玄

けんかん〔嚴塞〕(名) きびしきさま。けんかん〔関〕(名) (傳) いまの玄妙なる道にすみ入る。けんかん〔関〕(名) (傳) (い) 玄妙なる道にすみ入る。けんかん〔関〕(名) (傳) (い) 玄妙なる道にすみ入る。けんかん〔関〕(名) (傳) (い) 玄妙なる道にすみ入る。

けんかん〔関〕(名) (傳) (い) 玄妙なる道にすみ入る。けんかん〔関〕(名) (傳) (い) 玄妙なる道にすみ入る。けんかん〔関〕(名) (傳) (い) 玄妙なる道にすみ入る。けんかん〔関〕(名) (傳) (い) 玄妙なる道にすみ入る。



〔二〕器原

けんき〔街氣〕(名) ちかよか。けんき〔街氣〕(名) ちかよか。けんき〔街氣〕(名) ちかよか。けんき〔街氣〕(名) ちかよか。

けんき〔街氣〕(名) ちかよか。けんき〔街氣〕(名) ちかよか。けんき〔街氣〕(名) ちかよか。けんき〔街氣〕(名) ちかよか。

けんき〔兼業〕(名) 本業の他にするわざ。けんき〔兼業〕(名) 本業の他にするわざ。けんき〔兼業〕(名) 本業の他にするわざ。けんき〔兼業〕(名) 本業の他にするわざ。

けんき〔現金取立〕(名) 現金を取立つる。けんき〔現金取立〕(名) 現金を取立つる。けんき〔現金取立〕(名) 現金を取立つる。けんき〔現金取立〕(名) 現金を取立つる。

けんけ〔減刑〕(名) 刑罰を減らすこと。けんけ〔減刑〕(名) 刑罰を減らすこと。けんけ〔減刑〕(名) 刑罰を減らすこと。けんけ〔減刑〕(名) 刑罰を減らすこと。

けんけ〔権限〕(名) 法律上の権限。けんけ〔権限〕(名) 法律上の権限。けんけ〔権限〕(名) 法律上の権限。けんけ〔権限〕(名) 法律上の権限。

意見を述べるとを、裁判所に對し、獨立して事務を行ふ。
一、きよく「検事局」(名)「法」通常裁判所に附屬して置かれたる検事の事務を取扱ふ所。
一、せい「検事正」(名)「法」地方裁判所の検事局長官、其検事局の事務の指揮監督を掌り、該地方裁判所管内の検事を監督するもの。
一、そうちよう「検事總長」(名)「法」大審院の検事局長官、其検事局の事務の指揮監督を掌り、國內一般の下級検事を監督するもの。
一、ちよう「検事長」(名)「法」法務院の検事局長官、其検事局の事務の指揮監督を掌り、該検事管内の下級検事を監督するもの。

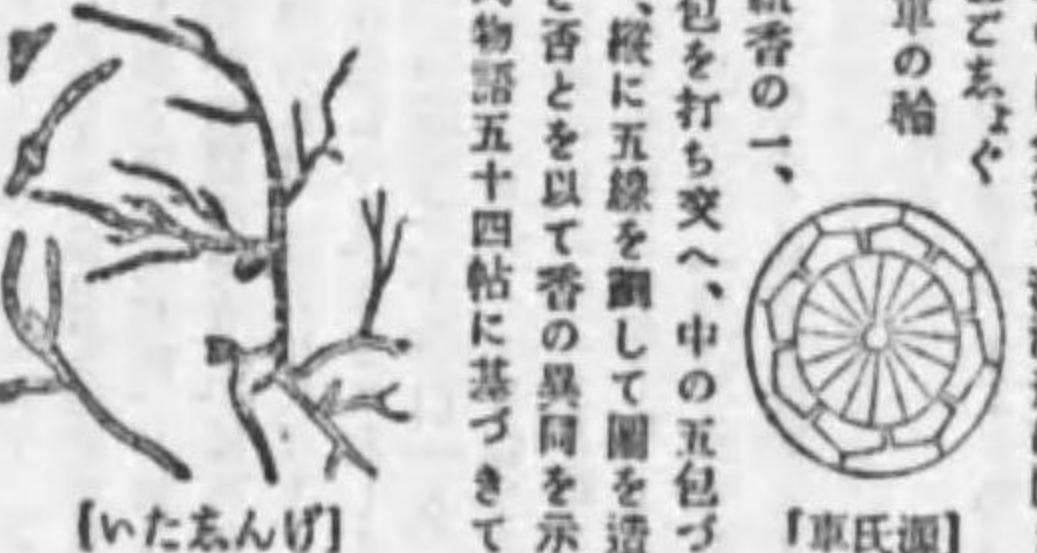
けんしーけんし「原子」(名)「化」如何なる化學的作用を施すとも、最早分かつべからずと假定せられたる物質の極微なるもの、分子は原子數より成る。
一、か「原子價」(Valency)(名)「化」元素又は基が水素と化合し又は水素と置換する割合、酸素の一原子は水素三原子と化合するが故に二價元素なり、又、水素基は水素一原子と化合するを以て一價なり。
一、か「原子量」(Atomic weight)(名)「理」物質の原子は成置分散して漸次異なる物質に移變すとす。
一、か「原子論」(Atomism)(名)「化」物質は原子より成り、又、異なる元素の原子は、一定の割合を以て化合すとす。
一、か「原子論」(Atomism)(名)「理」物質の原子は成置分散して漸次異なる物質に移變すとす。
一、か「原子論」(Atomism)(名)「理」物質の原子は成置分散して漸次異なる物質に移變すとす。

て、其元素を含む體での化合物の一分子量の中に存する其元素の量を公約し得る最大量をいふ、もと水素を標準としてこれを定め、例へば酸素の原子量を一五・八八なりとせしが、近來に至り、酸素の原子量を三二・〇とし、これを基礎として他の元素の原子量を表はすに至れり。
一、か「原子論」(Atomism)(名)「理」物質の原子は成置分散して漸次異なる物質に移變すとす。
一、か「原子論」(Atomism)(名)「理」物質の原子は成置分散して漸次異なる物質に移變すとす。

けんしーけんし「元始」(名)「原」原始時代に行はれたる低級素朴の産業。
一、か「元始時代」(Primitive)(名)「原」原始時代に行はれたる低級素朴の産業。
一、か「元始時代」(Primitive)(名)「原」原始時代に行はれたる低級素朴の産業。
一、か「元始時代」(Primitive)(名)「原」原始時代に行はれたる低級素朴の産業。

けんしーけんし「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。

けんしーけんし「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。



けんしーけんし

けんしーけんし「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。



けんしーけんし

けんしーけんし「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。



けんしーけんし

けんしーけんし「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。
一、か「源氏繪」(名)「源氏物語」五十四帖の繪を描きたる繪。

けんせーけんせ

けんせい「現世」(名)「佛」現在の世。此世。
けんせい「權勢」(名) いさひ。あせい。権力。權威。
けんせい「賢聖」(名) 賢人と聖人と。又、知識道徳のすぐれたる人。
けんせい「建制」(名) たてつくること。まうけさだむること。
けんせい「建制部隊」(名) 戦術上の目的により、平時より隊伍を編成して建設する部隊。
けんせい「牽制」(名) ひきとどめて、自由を束縛すること。
けんせい「憲政」(名) 憲法に依りて行ふ政治。立憲政治。
けんせい「憲政擁護」(名) 官復政治又は開族政治を攻撃して、憲政政治を擁護せんとすること。
けんせい「検税」(名) 租税を檢查すること。
けんせい「縣稅」(名) 縣内に住する者又は縣内に三ヶ月以上滞在する者若しくは縣内に於て土地家屋物件を所有する者に對して、縣の賦課する地方稅。
けんせい「幻世」(名) まぼろしの如くはかなき世。はかなき世。
けんせい「現世主義」(名) 現世に於ける名利のみ執着する主義。
けんせい「現世的」(名) 現世に於ける名利のみの執着する主義。
けんせい「現世」(名) 現世に於ける名利のみの執着する主義。
けんせい「現世」(名) 現世に於ける名利のみの執着する主義。

けんせーけんせ

けんせい「嚴正」(名) 嚴重に正しくすること。きびしくただしこと。
けんせい「嚴正中立」(名) きびしく中立の態度を守ること。
けんせい「荒蕪」(名) 荒れ果てた。
けんせい「減稅」(名) 租税を減らすこと。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。
けんせい「原生動物」(Protozoa) (名) 動物。

けんせーけんせ

けんせい「捲線砲」(名) 砲身の抗力を増加するため、従来の砲身に代りて鋼線を内筒とせる鋼管に捲きつけて強め、其上方に鋼の被殻を施したる火砲。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。
けんせい「健全」(名) 身體の健全なること。

けんそーけんそ

けんそ「元素派」(名) エレメンタリズム。
けんそ「減租」(名) 租税の額をへらすこと。
けんそ「藎草」(名) 藎草。
けんそ「喧嘩」(名) かまびすき。さわがしき。
けんそ「現像」(名) 形像をあらはらすこと。
けんそ「顯證」(名) あらはなると。明かると。
けんそ「建造」(名) かまへつこと。
けんそ「幻相」(名) まぼろしの如くはかなき世。
けんそ「現世」(名) 現世に於ける名利のみの執着する主義。
けんそ「現世主義」(名) 現世に於ける名利のみの執着する主義。
けんそ「現世的」(名) 現世に於ける名利のみの執着する主義。
けんそ「現世」(名) 現世に於ける名利のみの執着する主義。

けんそーけんそ

けんそ「還俗」(名) 僧をやめて俗人にかへること。
けんそ「減速度」(名) 速度の減る割合。
けんそ「減速動」(Retarded motion) (名) 時間の経過するに従ひ、運動の路程の次第に減退し行くこと。
けんそ「現卒」(名) 現在在る兵士。ありあはする兵士。
けんそ「謙遜」(名) へりくだること。卑下すること。ひかへめにする。
けんそ「兼題」(名) 兼題。
けんそ「支孫」(名) 支孫。
けんそ「現存」(名) 現在してある。現にあらへてある。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。
けんそ「兼帯」(名) 二つ以上の用を一つのものの兼ねる。

けんたーけんち

けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。
けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。



けんた「乾闥婆」(名) 乾闥婆。

けんもーけんよ

けんもん(権門) (名) 官位高く権力多き家。はばの利く家門。...

けんよーけんり

けんり(権力) (名) 他人を強制し服従せしむる力。治者が被治者に對し服従を強要する力。...

けんりーけんり

けんり(権力) (名) 他人を強制し服従せしむる力。治者が被治者に對し服従を強要する力。...

けんりーけんろ

けんり(権力) (名) 他人を強制し服従せしむる力。治者が被治者に對し服従を強要する力。...



【神地半聖】

けんろーけんわ

けんろ(権路) (名) 下情を上に進言する手段。...



【蛇下録元】

けんわーけんこ

けんわ(権外) (名) 権外に於ける。...

こういん(強淫) (名) がうかん(流寇)。
こういん(業因) (名) 佛の善惡の果報を受くる原因。
こういんけん(恒隱園) (名) Circle of perpetual occultation (名) 天或一地點に於て絶對に見るべきを得ざる天球の部分、即ち常に其地點の地平線下に當たる部分にして、恆見圓と對稱の位置を占むるもの。

こうえい(後衛) (名) 後方の護衛。後方の守備に任ずる部。
こうえい(後衛陣地) (名) 後衛の占領して敵を防止すべき陣地。
こうえき(交易) (名) かくく(交換)。

こうえん(鑛煙) (名) 化鑛物製煉所の煙突より排出する一種の氣體、亞硫酸五酸を主とす。
こうえん(口炎) (名) 口内腔内の粘膜炎及軟組織に發する。
こうえん(口演) (名) 口づからのよると。口をいふこと。

こうおん(高音) (名) たかであうの音。
こうおん(高恩) (名) 高大なる恩。
こうおん(皇恩) (名) 天子の御恩。
こうおん(厚恩) (名) あつき恩。よかきめぐみ。

こうか(行貨) (名) わいろ、まひなり。
こうか(閩家) (名) かないぢやう。一家内。全家。
こうか(皇化) (名) 天子の徳化。
こうか(黃化) (名) 黄の染め。黄の染料の次第に變じて、遂に黄白色となる。

こうか(鑛煙) (名) 化鑛物製煉所の煙突より排出する一種の氣體、亞硫酸五酸を主とす。
こうか(口炎) (名) 口内腔内の粘膜炎及軟組織に發する。
こうか(口演) (名) 口づからのよると。口をいふこと。

こうかーこうか

book(名) [法] 法律を以て船舶に備へ附くべきことを強制する船内重要書類の一、即ち航海中に起こる船内一切の事故を記載する日誌。一ひょうちやう。航海表=Nautical tables(名) [法] 航海術上の計算に必要な諸種の表。一けんこうちやう。航海變更(名) [法] 航海の本質を變じ到達地又は航路を變更する。例へば長崎より香港に向かひて出帆し、中途變更して上海に到達するが如きを云ふ。一ほけんあようけん。航海保險證券=Voyage policy(名) [法] 海上保險證券の一種、船舶の甲船より乙港に航海する間に起こるべき危険を擔保したる場合に、保險業者より發行する保險証券。一ほんきん。航海補助金(名) [法] かうるませいきん。一れき。航海曆=Nautical almanac(名) [天] 航海に必要な天文事項を記載せる曆書、専ら航海者で使用せらるる。イギリス國「グリニッチ」天文臺にて發行せるもの最も精しく、毎三年前に發行せらるる。

こうかい(公海) [名] 何れの國の主權にも屬せず、各國の平等に使用航海の自由を有する海洋、地球上の海洋の大部分はこれに屬す。領海の對。

こうかい(公開) [名] 公衆に對して開放すること。おほやけにひらくこと。一あきようちやう。公開市場=Market place(名) [特] 特別の條件なく、何人にも自由に入出入して取引をなし得る市場。一あきき。公開主義(名) [名] 何事をも秘密にせず、力めて公開する主義。一こうかいあんりあきき。公開審理主義(名) [法] 裁判所の對審判決即ち辯論・證據・官廳等を公開する主義。一こうかいあんりあきき。公開したる裁判。一ほかんちやう。公開保管(名) [商] 銀行が保證預の有價證券を保管すると同時に、其證券に對する利息・配當金若しくは元金の償還を受け取り、これを預主の勳定口座に拂ひ込む等、證券に關する一切の手續を取ること。

こうかく(光學) [光學=Optics(名) [理] 物理学の一分科、光の現象に就きて研究するもの。直線進行に關する幾何學的性質を研究するを幾何光學といひ、光の干涉・屈折・偏り等光波の特性を研究するを物理光學と云ふ。一いんあようちやう。光學異常=Optical anomaly(名) [名] 鏡物が諸品の外形に相應せざる光學上の性質を有すること。一きか。光學器械=Optical instruments(名) [理] 光學上の原則によりて組み立てられたる諸種の器械、顯微鏡・望遠鏡・寫眞機・分光器等すべてこれなり。一こうかく(皇學) [名] ころがく(國學)。

こうかく(後學) [名] 後進の學者(後生)。一こうかく(工學) [名] 工業に關する事項を研究する學。一こうかく(鴻學) [名] 學問に深く達したる人。一こうかく(溝壑) [名] みぞ。あな。たに。一に陥る(句) (體裁論に出づ) 苦しき境遇におちいるを云ふ。一に轉ず(句) (孟子に出づ) のたれだにして漂擧にころびこむ。

こうかく(合格) [名] 格式又は條件に適合すること。一採用の試験に及第すること。一あや(合格者) (名) 合格したる人。一あよあよ(合格證書) (名) 合格を證明して、各個の合格者に交付する文書。

こうかく(合翳) [名] Gamospalous(名) [植] 萼片の一部又は全部の互に相適合せるもの。なでしこの花の類。

こうかけ(首懸) [名] かうかけ(首)を見よ。

こうかけ(甲掛) [名] 布片にてつくり、手足の甲にかけて日光又は塵埃をおほひ遮るる具。

こうかけん(航河權) [名] [法] 河流を通航する權利。一こうかこうちやう。航河工=Canalization(名) [工] 水深を増し、又は急流を除きて、航行に適せしむる河川工事。

こうかごうきん(汞合金) [名] [化] アルマガム。一こうかごうきん(硬化護膜) [名] [化] エポキシド。一こうかざく(高架索道) [名] かくうさく(索道)



こうか(こうか) [名] 光の現象に就きて研究するもの。直線進行に關する幾何學的性質を研究するを幾何光學といひ、光の干涉・屈折・偏り等光波の特性を研究するを物理光學と云ふ。一いんあようちやう。光學異常=Optical anomaly(名) [名] 鏡物が諸品の外形に相應せざる光學上の性質を有すること。一きか。光學器械=Optical instruments(名) [理] 光學上の原則によりて組み立てられたる諸種の器械、顯微鏡・望遠鏡・寫眞機・分光器等すべてこれなり。一こうかく(皇學) [名] ころがく(國學)。

こうかーこうか

こうかーこうか

こうかい(後悔) [名] 前に行ひし事を、後に自ら悔ゆること。前になしし事を、自ら残念がること。一先にしたす(句) 事はして後に悔ゆとも其かひなく、とりかへしつかず。一は平日の油斷(句) 後悔は平日の油斷より起こる。一こうかい(稱會) [名] 事實をかまへつくり、つけあはせて發言をなし又は單科におとしむること。

こうかい(工會) [名] [社] 支那にて、労働組合の稱呼。一こうかい(公會) [名] [公] 公衆のよりあり。おほやけの會議。一Concert(名) [法] 重大問題を解決するために、特に開かる、國際會議。巴里。一どうちやう。公會堂(名) [名] 公衆のよりあり場所に設けたる建築物。

こうかい(拜) [名] かがい(拜)を見よ。

こうかい(梗概) [名] あらまし。たいりやく。一こうかい(慷慨) [名] 意氣ふるひおこりてなげきかなしむこと。いきどほりなげくこと。一か(慷慨家) (名) 國事又は世事を慷慨して、よく興奮し奔走する人。

こうかい(校外) [名] 學校のそと。學校の構外。一きようあきき。校外教授(名) 生徒を引率して校外に出で、自然を觀察せしめて教授すること。一せい(校外生) (名) 通信教授又は講義録等によりて、其學校の教育を受ける生徒。

こうかい(郊外) [名] まちはづれのべ。一さんぼ(郊外散歩) (名) 郊外のよらよらあるき。一こうかい(口蓋) [名] [生] 口蓋の上蓋、即ち鼻腔の床底、硬口蓋と軟口蓋とより成る。一こうかい(口蓋骨) [名] [生] 顔面骨の一種、鼻腔の後側壁に位置せる一對の骨にして、形狀は扁平r字形をなす。一はれ(口蓋破裂=Cleft Palate) (名) [生] 口蓋部の組織の先天的又は後天的に缺損したるもの。みづち。いぐち。

こうかい(口外) [名] 他人に告ぐること。ことばに發すること。くちにだすこと。一こうかい(橋外) [名] かこひこと。一こうかい(校外) [名] 新聞・雜誌などが、臨時に發行するすりのもの。一ちやう(校外相場) (名) [商] 時事の大問題のため、新聞の(架空堂)

こうかい(カウカシアン) [名] カウカシアンを見よ。一こうかい(恒河沙) [名] (印度の大河たる恒河の) の沙の義。多量無限なる數。一こうかい(甲賀衆) [名] 徳川幕府に仕へし近江の報告者。一こうかい(工科大学) [名] [工] 分科大學又は單科大學の一、工學の進展を専修すること。一こうかい(按察) [名] 悪才あること。わるするとき。一こうかい(廣闊) [名] ひろびろして眺望のひろけわ。一こうかい(公學校) [名] [教] 臺灣又は關東廳にて、本土人の兒童に普通教育を施す小學校。

こうかい(高架鐵道) [名] Elevated railway(名) [名] 地上に高く支架を建設し、其上に架設する鐵道、多くは市街などの如き人家多く交通繁くして地域狭き所に架設す、西紀一八六七年「アメリカ」合衆國「ニューヨーク」市に架設せられしを嚆矢とす。一こうかい(高價發行法) [名] [經] 公債募集にて、公定の發行價格以上の高價を以て應募申込をなすものに對し、募入の優先權を與ふる方法。一こうかい(豪華版) [名] [用] 紙・印刷若しくは裝釘等に、費用を惜まざるぜいたくの出版物。一費用のかまひなく、心のままに贅飾を盡したる出来上りのもの。一こうかい(硬化病) [名] [動] 蟹の死後に體の硬化する病、白癩病・疥癬病等あり。一こうかい(好下物) [名] よき酒の香。

こうかい(紅花綠葉) [名] くれなゐの花とみどりの葉と。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(浩瀾) [名] 廣大なること。多きこと。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(高價發行法) [名] [經] 公債募集にて、公定の發行價格以上の高價を以て應募申込をなすものに對し、募入の優先權を與ふる方法。一こうかい(豪華版) [名] [用] 紙・印刷若しくは裝釘等に、費用を惜まざるぜいたくの出版物。一費用のかまひなく、心のままに贅飾を盡したる出来上りのもの。一こうかい(硬化病) [名] [動] 蟹の死後に體の硬化する病、白癩病・疥癬病等あり。一こうかい(好下物) [名] よき酒の香。

こうかい(紅花綠葉) [名] くれなゐの花とみどりの葉と。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(浩瀾) [名] 廣大なること。多きこと。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(高價發行法) [名] [經] 公債募集にて、公定の發行價格以上の高價を以て應募申込をなすものに對し、募入の優先權を與ふる方法。一こうかい(豪華版) [名] [用] 紙・印刷若しくは裝釘等に、費用を惜まざるぜいたくの出版物。一費用のかまひなく、心のままに贅飾を盡したる出来上りのもの。一こうかい(硬化病) [名] [動] 蟹の死後に體の硬化する病、白癩病・疥癬病等あり。一こうかい(好下物) [名] よき酒の香。

こうかい(紅花綠葉) [名] くれなゐの花とみどりの葉と。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(浩瀾) [名] 廣大なること。多きこと。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(高價發行法) [名] [經] 公債募集にて、公定の發行價格以上の高價を以て應募申込をなすものに對し、募入の優先權を與ふる方法。一こうかい(豪華版) [名] [用] 紙・印刷若しくは裝釘等に、費用を惜まざるぜいたくの出版物。一費用のかまひなく、心のままに贅飾を盡したる出来上りのもの。一こうかい(硬化病) [名] [動] 蟹の死後に體の硬化する病、白癩病・疥癬病等あり。一こうかい(好下物) [名] よき酒の香。

こうかい(紅花綠葉) [名] くれなゐの花とみどりの葉と。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(浩瀾) [名] 廣大なること。多きこと。一こうかい(好漢) [名] よき人物。役に立つことを。一こうかい(好感) [名] きもちよき感じ。

こうかい(高價發行法) [名] [經] 公債募集にて、公定の發行價格以上の高價を以て應募申込をなすものに對し、募入の優先權を與ふる方法。一こうかい(豪華版) [名] [用] 紙・印刷若しくは裝釘等に、費用を惜まざるぜいたくの出版物。一費用のかまひなく、心のままに贅飾を盡したる出来上りのもの。一こうかい(硬化病) [名] [動] 蟹の死後に體の硬化する病、白癩病・疥癬病等あり。一こうかい(好下物) [名] よき酒の香。

こうかーこうか

こうか(光學) [光化學=Photochemistry(名) 光と化學變化との關係を論ずる學。一こうか(紺瓶) [名] こんや。こうや。そのものや。一こうか(高架構) [名] 地上より高く架設せられたる欄。一こうか(行客) [名] ゆききの旅客。たびびと。一こうか(高閣) [名] 高く構へたるたかどの。一高にあげおく後、即ちをさめおきて使用せざるをいふ。「物」にあげおく後、即ちをさめおきて使用せざるをいふ。「物」。

こうか(香革) [名] 革皮に香料を吸收せしめたる句。一こうか(礦確埃填) [名] 石多くして地味の豐沃ならざること。又、其地。いしち。やせち。

こうか(脚角) [名] [地] みさき。さき。一こうか(脚足動物) [名] [動] 脚足動物の皮膚の多量に石灰質を含みて硬化したるもの。かぶら。かぶ。一こうか(脚足動物) [名] [動] 脚足動物の皮膚の多量に石灰質を含みて硬化したるもの。かぶら。かぶ。一こうか(脚足動物) [名] [動] 脚足動物の皮膚の多量に石灰質を含みて硬化したるもの。かぶら。かぶ。

こうか(光覺) [名] [心] 眼に光の刺激を受け、これを視神經より腦に傳へて、感覺するはたらき。一こうか(光角) [名] [光] 二角にて物體の一點を照らし、其一點より兩眼に引きたる二直線の夾む角、其角の小なるほど望む點は遠し、眼にて物體の遠近を判斷する要素の一種なりとす。

こうか(上下兩唇の接合部) [名] くちまき。くちまき。一沫を飛ばす(句) 氣激し勢はげし言論す。一こうか(後覺) [名] 後に修めんとする人。後進者。一こうか(好學) [名] 學問をこのむこと。一こうか(講學) [名] 學問をさしむること。

こうか(向寒) [名] さむさに向かふこと。一こうか(高官) [名] 地位たかき官職。又、其人。一こうか(交驛) [名] 交通の便。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。一こうか(交換) [名] かわりかへ。

こうかーこうか

こうかーこうか

射する熱と等量の熱を吸収せるものなりといふ説、西紀一八〇九年「ジュネー」の人「アレーボ」の創説に係る。...



こうかん(槓杆) (Lever) (名) 一定のまはりに廻轉し得る丈夫なる棒、其或點に力を加へて他の或點に於ける抵抗を...

こうかーこうか

こうかん(紅顔) (名) 年わかき頃の血色うるはしき顔。紅色を呈するいろつやよき顔。...

こうかん(仰願寺) (名) かうくわんざらふそく。こうかん(好感情) (名) きもちよき感情。...

こうきーこうき

こうき(綱紀) (名) すべをさむると。つなぎをさむると。四方を一す。...

こうき(皇宮) (名) 天皇の住み給へる宮殿。ごま。こうき(皇宮警察) (名) 皇宮警察官。...

こうきーこうき

こうき(高義) (名) なみなみならぬ義。すぐれ。こうき(講義) (名) 文者又は學說の意義を講じあきらむる。...

こうきーこうき

こうき(好奇心) (名) つねに異なる事をおぼへ。こうき(好機) (名) こよなき機会。...

こうきーこうき

こうき(航路) (名) 船舶が地球の大圓弧上を航行する場合に、算法によらずして針路又は航程を知り得る器械。...



こうしーこうし

こうしよ(孝女) 孝行なる女。
こうしよ(皇女) 天皇の御女。(内親王)。
こうしよ(工女) 工場に雇はれて仕事する女。
こうしよ(控除) 差しひくこと。のぞく。
こうしよ(高商) 高等商業学校の略。
こうしよ(高尚) 程度高きこと。一なる學科。
こうしよ(好尚) このみ。のぞみ。
こうしよ(翱翔) 鳥の翼を張り展(て)べて空をかけること。
こうしよ(巧匠) たくみなる職人。
こうしよ(行省) 支那元代に設けられし地方官府。中央官府たる中書省の出張所の義にして、該地方を統轄し一切の政治を掌せしもの。支那の地方區劃を省と稱するはここに淵源す。
こうしよ(行商) 諸處を巡行して貨物を賣りあること。又、其商人。せりうり。たびあきんと。
こうしよ(行商隊) たいまや(陸軍)。一に(行商人) (名) 行商をなす人。
こうしよ(行賞) 賞與をあたふること。一未きん(行賞賜金) (名) 國家の事件に關して功勞ありしものに、賞與せらるゝ金員。
こうしよ(講頌) 宮中歌會のとき、詠歌を吟詠ししもの。訓詁を主とし、博く古典を考へ編纂を避け、以て經書の訓詁を闡明せんことを目的とせり。一がくは(考證學派) (名) 支那にては清朝に、我國にては徳川時代に起こりし儒學の一派、經書を解釋するに専ら考證に基きたるもの。
こうしよ(巧笑) うつくしきわらひがは。あいきやうあるまがは。一情たり。

こうしーこうし

こうしよ(交渉) かけあひ。はなしあり。
こうしよ(鑛床) 有用礦物の天然に集積して採掘をなすべき所。一がく(鑛床學) (名) 鑛床の種類・成因・分布等を研究する學。
こうしよ(紅晶) 紅色の水晶。
こうしよ(工匠) たくみ。だいく。
こうしよ(公娼) 公許を受けて營業する娼妓。
こうしよ(公稱) おほいなるつりがね。
こうしよ(公稱資本) 銀行・會社等が、定款に定めて登記をなしたる資本金額。一ぱりき(公稱馬力) (Nominal horsepower) (名) 機関又は汽機などの賣買上に稱する馬力。眞の馬力にあらず、寧ろ大さを示す量に近く、特定の算法によりて算出す。例へば蒸氣機関の公稱馬力は、通常單に汽機を基とするが如し。
こうしよ(公證) 表立たる證據。おほやけのあかし。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。
こうしよ(公證官) 公證官。

こうしーこうし

古例とす、願許すれば上皇に祈らばはきためといふ古昔、朝廷にて八月十一日に、六位以上の官人の形骸行狀等を受け、官爵を授けられし儀式。
こうしよ(皇上) 現代の天皇。今上。「まやう。
こうしよ(皇城) 天皇のまします御城。きやう。
こうしよ(厚情) 厚きなさけ。ねんごころなる情。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。
こうしよ(恆常) つね。さまじり。

こうしーこうし

かんり(工場管理) (名) 社労働争議の結果、工場占領をなしたる労働者が、自己等の手によりて其工場を管理し、従前の工業を依然として繼續しゆくこと。一きよきかい(工場協議會) (名) 工場に於ける労働争議を解決するための機關、工場委員を以てこれを組織す。一けいさつ(工場警察) (名) 工場内の危険預防・健康保全・風紀維持并に公益保護を目的とする警察。一こうぎやう(工場工業) (名) 工業組織の一、工場に於て多數の労働者を使用し、適當の機械を据ゑ附けて工業に従事する、家内工業の進歩したる組織にして、規模の家内工業より遙かに壯大なるもの。一さいだん(工場財團) (名) 法一箇又は數箇の工場に關する土地・建物・機械器具其他一切の物件の全部若しくは一部を以て、抵當權の目的のために設定したる財團、所有權保存の登記によりてこれをなす、法律上これを不動産と見做し、所有權及抵當權以外の物權又は貸借の目的となすを得ず、且一の財團に屬するものは、他の財團に屬するを得ざるものとす。一せんりやう(工場占領) (名) 社労働者の労働者及其企業家との間に起こりたる労働争議の不調より、労働者が團結して企業者側を退け出し、自己等の手に其工場を占領すること。一ちよきん(工場貯金) (名) 社工場内の労働者の災厄に備ふるために金、其労働者の交拂期を利用して、任意的若しくは強制的に其預入をなさしむるもの。一ちいとう(工場抵當) (名) 工場所有主が、工場に屬する土地・建物及機械器具等に對して抵當權を設定すること。一くさ(工場閉鎖) (Lock-out) (名) 社工場に於ける労働者が同盟罷工をなしたる場合に、該工場所有主たる企業家が、事業を休止して其労働者を解雇すること。一ほうり(工場法) (名) 社工場に於ける労働者の年齢・男女・労働時間等に關し、一定の制限を與へて保護を行ふ法律。
こうしよ(豪商) 富豪なる商人。財産多く商業手ひろきあきやう。かねもちのまやうにん。

こうしーこうし

こうしよ(業障) ありつに堪らずか。
こうしよ(強情) 心のかたくななること。意地をはりとはす性質。まよとこと。がまん。
こうしよ(公生涯) 一生運の中にて、公共の事に關係して活動したる間。
こうしよ(高勝嶺) 兜の鉢のうしろに高勝山とも書く、兜の一種、鉢深くわきをつぶし山を高くして、てんべんの孔を小さくしたるもの。
こうしよ(甲狀舌骨膜) (名) 生甲狀軟骨の上縁と舌骨とを聯絡する膜。
こうしよ(甲狀腺) (名) 生血管腺の一、喉頭の下部にして氣管の上部なる所に位し、帶黃赤色にして稍馬蹄狀を成す、健全なる新陳代謝に缺くべからざる内分泌の機能を有し、其機能減弱すれば神經機能著しく障害せらる。一あめ(甲狀腺腫) (名) 病甲狀腺の腫脹、地方病的又は流行病的に來り、殊に山國に多し、而も本邦流行の地方病には白癩の多數なるを見る、男子よりも女子に多し。
こうしよ(廣骨大暮) (名) 永久に明けざる夜、即ち人の死去して埋葬せらるること。
こうしよ(甲狀軟骨) (名) 生喉頭部の前側部を形成する扁平方形の軟骨。
こうしよ(公證人) (名) 法人民の囑託に應じ民事に關する公正證書を作成し、私署證書に認證を與ふる權限の公吏、司法大臣これを任命し、其指定せる地方裁判所の所屬とす、公證人たるには法律上一定の資格を有し、定式の試験に及第し、六箇月以上實地修習したることを要す。一やくば(公證人役場) (名) 法公證人が其所屬地方裁判所の管轄區域にして司法大臣の指定したる土地に設けて其事務の取扱をなす所。
こうしよ(興正派) (名) 佛圓宗の一派、京都



【猫狀甲】

こうしーこうし

こうしよ(甲狀軟骨) (名) 生喉頭部の前側部を形成する扁平方形の軟骨。
こうしよ(公證人) (名) 法人民の囑託に應じ民事に關する公正證書を作成し、私署證書に認證を與ふる權限の公吏、司法大臣これを任命し、其指定せる地方裁判所の所屬とす、公證人たるには法律上一定の資格を有し、定式の試験に及第し、六箇月以上實地修習したることを要す。一やくば(公證人役場) (名) 法公證人が其所屬地方裁判所の管轄區域にして司法大臣の指定したる土地に設けて其事務の取扱をなす所。
こうしよ(興正派) (名) 佛圓宗の一派、京都



【(四大陸)鮮紅色紅】

こうしーこうし

こうしーこうし 高(白、上) 増長す。たかぶる。高(白、上) 増長す。たかぶる。高(白、上) 増長す。たかぶる。

こうしーこうし

こうしーこうし 命題の主幹となり、最後の命題即ち断案に於て、最初の命題の主幹が主幹となり、直前の命題の賓語が賓語となるもの。例へば、甲は乙なり、乙は丙なり、丙は丁なり、故に甲は丁なり。の如し。

こうしーこうし

こうしーこうし 一ぼらひび「荒神殿」(名) かまぼらひ。一まつ「荒神松」(名) 荒神に奉る松の枝、胡粉などを飾りたるもの。一まつり「荒神祭」(名) 荒神の祭禮。

こうしーこうし

こうしーこうし 尤進(昂進) (名) たかぶります。又、あたらはる。行進(名) 前方へすすみます。あゆみます。行進運動(名) かうきんう。

こうしーこうし

こうしーこうし カルシウム 一種を生じて沈澱し、洗滌の用をなす。鑛水(名) 天然に多量の鑛物質を含有し醫藥の目的に使用せらるる水。

こうしーこうし

こうしーこうし 一ぼらひび「荒神殿」(名) かまぼらひ。一まつ「荒神松」(名) 荒神に奉る松の枝、胡粉などを飾りたるもの。一まつり「荒神祭」(名) 荒神の祭禮。

る気象の観測及調査に関する事務を掌る所。
 こうそろう(航送)一名 船舶の航行によりて物を運送する事。
 こうそろう(航送便)一名 航送による郵便物運送。
 こうそろう(宏荘)一名 おほいにしたりつばなると。
 こうそろう(皇宗)一名 天皇の代々の御祖。「構」。
 こうそろう(舖層)一名 舖層上下の地盤と相前後して生成し、位置の水平なるを原則とする鑛床。
 こうそろう(紅藻)一名 藻類の一、多くは海藻、根、葉の區別別然せざる柔軟の藻類にして、大抵多数の細胞より成り、絨状・葉状・羽状其他種々の形をなす、各細胞は葉緑素の外に紅色素を多く含有するを以て、紅色又は紫色を呈す、あざくさのり、てんぐさ等これに屬す。紅色藻。
 こうそろう(構想)一名 かんがへをくみわたつると。又、くみたてたるかんがへ。「さうぞう(想像)」。
 こうそろう(鴻爪)一名 鴻の南に來るとき、後の左るべに雲に爪痕をつけると、北に歸るときは、雲消えて其痕なき義)行跡の定かならざると。徑路の不明なること。
 こうそろう(後装)一名 銃身又は砲身の底下にある閉鎖機を開閉して、彈藥を装填する装置。もとめて。「さゆう(後装銃)」。後装の製作なる銃。——ほうろ(後装砲)一名 後装の製作なる砲。
 こうそろう(口装)一名 銃口又は砲口より彈藥を装填する装置。——さゆう(口装銃)一名 口装の製作なる銃。
 こうそろう(口装砲)一名 口装の製作なる火砲。
 こうそろう(後送)一名 後方へおくこと。「あとより送る」。
 こうそろう(後像)一名 心に刻取去りたる後、其感覺の尙は意識中に殘留せるもの。
 こうそろう(構造)一名 ぐみたてつくると。かまへつくると。「つくりかた。かまへかた」。——く(構造谷)「Tectonic valley」(名)【地】地殻の褶曲又は断層によりて生じたる谷。——ちんがく(構造山岳)「Tectonic mountain」(名)【地】地殻の褶曲又は断層によりて生じたる山岳。——さき(構造式)「Constitutional formula」

(名)【化】諸元素記號を元素化合價の關係によりて配列したる分子式例へば水はH₂OHなるが如し。——さきん(構造地震)「Tectonic earthquake」(名)【地】地殻の断層又は地層等によりて起こる地震。「んなること」。
 こうそろう(豪華)一名 氣象はでやかにしていきほひ盛つにあはせて盛ると。——ゆうびんぶつ(台装郵便物)一名【法】第一種郵便物と第五種郵便物との如き異種の郵便物を合装したるもの。
 こうそろう(紅槍會)一名 北支那に於ける土匪の暴虐に對する自衛的結社槍に紅の旗を付けて標識となすもの。
 こうそろう(皇會孫)一名【法】天皇の御ひまで。
 こうそろう(高足)一名 たかあし。「學藝のすぐれたる弟子。優秀なる門弟。高弟」。
 こうそろう(梗塞)一名 ふさがりて通ぜざること。
 こうそろう(拘束)一名 かかはりおぼらるること。「拘引して束縛すること」。「拘束力」(名)【法】自由の行動をなせしめざる效力。とめおぼらるはたらし。——さきん(皇族)一名【法】天皇の御一族皇室典範の規定により、太皇太后・皇太后・皇后・皇太子・皇太子妃・皇太孫・皇太孫妃・親王妃・親王王妃・王王妃・女王をいふ。「かき(皇族會議)」一名【法】皇室典範の規定によりて開かる、皇族の親族會議、成年以上の皇族男子を以て組織せられ、内大臣・樞密院議長・宮内大臣・司法大臣・大審院長並列の上にて、諮詢せられたる事項を議決する機關。來臨を表すために掲ぐる旗。——さきん(皇族職員)一名【法】親王家又は諸王家に置かる、職員、別當・家令・家扶等これなり。——さきん(皇族訴訟)一名【法】皇族相互間の民事訴訟又は人民より皇族に對する民事訴訟及刑事訴訟、皇族相互間の民事訴訟は、勅旨により官省内省にて裁判員を命じて裁判せしめ、勅裁を経て執行するものとし、人民より皇族に對する民事訴訟は東京控訴院にて裁判し、刑

事訴訟は大審院にて審判す。——ちようかい(皇族懲戒)一名【法】皇族が其地位を辱むる所行あるか又は皇室に忠順を缺くかの場合に、皇族會議に諮詢し、勅旨を以て料せらる、懲戒、謹慎及特權の停止又は剝奪等なりとす。——つきふかん(皇族附武官)一名【法】皇太子及陸海軍武官たる皇族に附屬する武官、皇族の威儀・裝飾を奉助し、軍務・祭儀・祝會等に隨從するもの。——とつけん(皇族特權)一名【法】皇族の有する特權、即ち樞密院・貴族院の議事に列し、皇族會議に列し、皇室の自治に與り、一般法律の支配を受けず、戸籍又は住所を基礎とする義務を被らず、徵稅上の不課、司法上の特例・榮典上の特權等。
 こうそろう(豪華)一名 勢力大なる家門。財産多き一家。
 こうそろう(航線力)一名【船】艦船の一たび搭載したる燃料のみにて、航路を航行し得る力。
 こうそろう(香染)一名 黄に黒みを帯びたる色、袈裟などの染色に用ふ、もと印度にて、乾陀羅といふ香樹の葉汁にて染めしより此名ありといふ。
 こうそろう(紅染)一名 ペにぞめ。——づき(紅染月)一名 陰曆八月の異稱。
 こうそろう(髮刺)一名 「かうぞり」を見よ。
 こうそろう(皇孫)一名 天皇の御孫。「皇孫」。
 こうそろう(荒損)一名 耕作できず破損したること。——せん(荒損田)一名 自然の災害に荒損したる田。
 こうそろう(公孫)一名 王侯のまて。「貴族のちすぢ」。
 こうそろう(公孫樹)一名 一種の樹。「種」にてよ。
 こうそろう(小歌)一名 謡の中にある一種の節又は其文句。又、狂言にて謡ふ一種の節又は其文句。
 こうそろう(小唄)一名 一種の歌、歌曲の短きもの、古き物語などにも既に見え、足利時代に今様の漸く衰ふるに及び、これに代はりて盛んに行はれ、徳川時代に入りて種々の流派起こり、三味線などに合はせて歌へり、後にこれを端唄といふ。
 こうそろう(更代)一名 あらためかふる事。又、あらたまりかはること。
 こうそろう(交遊)一名 交遊の狀態。まじはりのありさ

こうそろう(交代・交替)一名 かはりあひいりかはり。「交替」。「こうそろう(交代鑛床)」(名)【地】岩石中の成分を遷延して其空隙を充ち、かはりあひて充填して生成したる鑛床。——さき(交替使)一名 古官、官人の交替に際して事故ある場合に、復還せられし使者。「代式」。「交代式」Alternative expression(名)【數】代數式の一、若干の變數よりなれる有理式につき、式中の二箇の變數を轉換するとき、其符號を變ずる場合の稱、例へば(a-b)(c-d)はa.b.cの交代式なり。——さき(交替式)「Alternat」(名)【法】國際上に於て、各國の君主又は代表者の席次又は署名等の順序を、相互の便宜に從ひてこれを交替し、以て其權衡を保つこと。——さき(交替神教)「Kathenotheism」(名)【宗】至上神として崇拜する神格が、時と所とに從ひて交替する宗教。——さき(交代本位)「Alternative standard」(名)【經】根本本位にて、本位貨幣たる金銀貨が同時に相並びて流通するは、法定比價と金銀市價と相一致し又は接近せる場合に於て、雙方の間に多少の差異あるときは、價格の下落せる貨幣は、價格の騰貴せる貨幣を遷延し、時に金貨のみ流通し時に銀貨のみ流通して、本位貨幣の轉換して一定せざる事。——さき(交代寄合)一名 徳川時代に、領地に住みて、隔年參勤交代する一萬石未満の家柄、家中の管下にこうそろう(光體)一名 理光を放射する物體。「屬す」。
 こうそろう(後退)一名 あとへさがると。あととざり。
 こうそろう(高大)一名 たかくおほいなること。「最もすぐれたること」。「尻つき」。「つきがよい」。
 こうそろう(香臺)一名 香爐を載せおく臺。「婦人のこうそろう(交題)一名 四季とり交ぜの俳句の題」。
 こうそろう(廣大)一名 ひろくおほいなること。「すぐれてたよこと」。「むへん(廣大無邊)」(名) ひろくしてはてやかざりなきこと。
 こうそろう(後代)一名 後の世、こうそろう(剛體)「Rigid body」(名)【理】如何なる力を加ふとも、變形又は變積せざる假想體。——さき(剛體力學)「Rigid mechanics」(名)【理】力學の一分科、剛體の運動に就きて研究するもの。
 こうそろう(皇太后)一名 皇族の御一人にして、天皇の御母にまします御方。おほきさき。
 こうそろう(皇太后宮)一名 皇太后のまします御殿。——さき(皇太后宮職)一名 皇太后宮に關する事務を司り、主管の會計を掌る所。
 一のたいふ(皇太后宮大夫)一名 皇太后宮職の長官、職務を總理し職員を監督するもの。
 こうそろう(皇太子)一名【法】皇位を繼承したまふ御方と定まらるる皇太子。ひつぎのみこ。まうけのみこ。——さき(皇太子旗)一名【法】皇太子の行啓に用ひらるる旗。「皇太子の旗」(名)【法】皇太子の御旗も亦同じ。——さき(皇太子妃)一名【法】皇太子の嫡妻にまします御方。
 こうそろう(皇大神)一名【神】神の最高なる稱號、専ら伊勢神宮・熱田神宮等に用ひらる。すめおほみかみ。——さき(皇大神宮)一名【神】伊勢の大御宮。「ふ皇孫」。
 こうそろう(皇太孫)一名【法】皇位を繼承したまふ御方と定まらるる皇太孫。おほきさき。
 こうそろう(皇太夫人)一名 天皇の御生母にして妃にて夫人にまします御方。すめおほや。「るこ」。「足袋」。
 こうそろう(甲高)一名 手背又は足甲の高くはりいでたものがやく度合、つや、ひかり。「佛」。「光明の利益によりて清度せらるること」。「がはつ(光澤革)」(名)「エナメル」革其他光澤を有する革。「き(光澤機)」(名)「カレンダ」。「光澤紙」「Gland paper」(名) 特別に光澤を施し加へたる紙。——さき(光澤寫眞)一名 特別の仕上によりて光澤を施したる寫眞。
 こうそろう(背誦)一名 うべなふこと。うけひくと。
 こうそろう(草莽)一名「種」からたけを見よ。
 こうそろう(小打浪瀾)一名「浪」いり江などにて、こたつ(公達)一名 政府よりのたし、ふれ。
 こうそろう(口達)一名 ことばにての言渡。「こと」。
 こうそろう(攻奪)一名 攻め奪ふこと。
 こうそろう(強奪)一名 ちひてうばひとること。かすめとこと。
 こうそろう(小説)一名 謡曲の文中の主要部分を換へき取りて一曲となせるもの。こうた。
 こうそろう(高田焼)一名 肥後國高田村より産出する磁器、赤地青灰色を帯び、釉に嵌り、象眼又は彫刻を施したるものあり。「どうそ。ではうたさ」。
 こうそろう(荒誕)一名 言説又は事實のよりどころなきこと。「たか」。「くちのはし」。くちさき。
 こうそろう(高談)一名 聲たかくものがたると。「世間傳らずものがたると」。「おせつ。おはなし」。「ほうげん」。「高談放言」(名) 世間傳らず勝手ままの言論をなすこと。——さき(高談雄辯)一名 ことだかによとみなく、さべりたつこと。
 こうそろう(講談)一名 かうた(講釋)(二)。——さき(講壇)一名 講義する座位。——さき(講壇社會主義)「Kathedersozialismus」(名)【社】社會政策上の主義、社會主義及自由主義に反抗せるものにして、現在の政治組織を變革せずして改良を加へ、私有財産制度及自由競争より生ずる弊害を救済し弱者を保護することを主張す、西紀一八二七年「ドイツ」の大學教授の組織せし社會政策學會の發表せし所にして、當時新聞記者等が學者の空論なりと嘲けりて命名せるに起因せるものなり、講壇とは大學の講堂を指していふ。
 こうそろう(香綵)一名 説話間に用ひらる、香染の平織。「船樂の道具を巻くに用ふる幅狭き布、青若しくは赤と白とに染め交へたるもの」。
 こうそろう(光輝)「Star shell」(名) 暗夜を照らすた

こうたーこうち

め発射する砲弾、強き光輝を有し、敵の近接の警戒などに用
こうたん【後段】(名) 後のくだり。後のだん。「ひらら。
こうたん【家贈】(名) 贈のよくすわりて居る。物事
に贈せぬと。だいたん。「の少年」。

こうちーこうち

こうち【小路】(名) (こみち)の音便。幅の狭き路。大路の
對(夾巷)——いさ小路車(名) 市街の中にてのた
たかひ。市街車。——がくれ【小路隠】(名) ちばし他所
にかくれ住む。——きり【小路切】(名) 小路を横ぎ
りて行く。——な【小路名】(名) 禁中の女官の春
日・京極・高倉など京都市中の小路の名を附けし稱呼。
例へば高倉に住む人を、高倉殿と書くが如し。

こうちーこうち

音に出づ)支那の古書は黄紙を用ひ、韻字を塗抹するに雌黄
を用ひたるより、自己の言論を自由に訂正するをいふ。
の蝨(句) (韓非子に出づ)つよし易くはより易きものに譬
へいふ。——を契る(句) 男女の接吻するをいふ。
こうちゅうせき【紅柱石】(Andalusite)(名) 【鐘】柱状
鑿士の鐘物、四角柱状の結晶をなし、雲母片岩等に産す、硬度
高く、玻璃光澤を有し、鮮灰色・黄褐色・紫色等種々の色を呈
出する。——【較著】(名) いちぢるしきと。ちよめい。「す。
こうちゅう【皇儲】(名) 天皇の御よつぎ。
こうちゅう【合著】(名) 共同してなしたる著述。
こうちゅう【腔腸】(名) (動物)腔腸動物の内部の體腔、
高等動物の體腔と消化管とを兼ねたるものにして、其一部又
は全部を以て食物の消化作用を営む。——【どうぢり】腔
腸動物(名) (動物)動物界の一門、複雑動物中劣等なるもの
の一にして、體形は種々あれど、構造は一般に鐘状若しくは
圓筒状にして、輻状相稱を呈し、僅かに二層の皮膚組織より
成り、概ね口の周囲に觸手を有す、其口により外界に通ずる
内腔は即ち腔腸なり、特性として外面の皮膜中に毒刺胞と
稱する小胞ありて、最も觸手に多く、其内に細刺及有腺體
を含有し、隨意にこれを射出して攻撃及防禦の用をなす、概
ね海産にして、自在に浮遊するものと他物に附着せるものと
あり、「くらげ」「いそせんちん」「さんご」「藻」等これに屬す。
こうちゅう【校長】(名) 學校の長。
こうちゅう【高潮】(名) 他人の勳々の敬語。おき
こうちゅう【高潮】(名) 潮のあがり。
こうちゅう【高潮時】(名) あげ潮の極に達する時刻。——せ
ん【高潮線】(名) あげ潮の極に達したときの水位の線。
こうちゅう【高調】(名) 調子を高くする。力をこむ
ると。——【意氣の揚がる】心の際する。——【よき景氣】
こうちゅう【好調】(名) よき調子。——【よき工合】
こうちゅう【皇朝】(名) 我國の朝廷。又、我國。
こうちゅう【候鳥】(Migratory birds)(名) (動物)季
節に従つて住處を變する鳥、鐘の如く春來りて秋去るを夏往
部をなはすと。

こうちーこうち

鳥といひ、鐘の如く秋來りて春去るを冬住鳥といふ。其他多
くは春秋に移住するものなり、すべて其習性及食物の關係に
原因し、多くは數千里の海を隔てて去來す、沙水類は殆ど候
鳥にして、沙水類及鳴禽類にも亦候鳥多し。わたりどり。
こうちゅう【紅潮】(名) 朝日などとうつりて紅に見
ゆる海波。——【くれなゐ色のさして見ゆると】。——【美人などの
はぢらひて顔をあかくすること】。
こうちゅう【郷長】(名) 古昔、郡司に屬して、一郷の
戸口の檢校・非違の禁察、賦役の催集を掌りしもの。ざんせき。
こうちゅう【抗張材】(Tension member)(名) 結構に於て、應張力を受くべき材料。
こうちゅう【黄長石】(Melilite)(名) 【鐘】
黄色又は褐色を呈する結晶性物質、長柱状又は針状若しくは圓
錐状に結晶す、火山岩中に存在すれど、我國には未だ発見せ
ざらぬ。
こうちゅう【工賃】(名) 職工のてまら。
こうちゅう【轟沈】(名) 艦船を砲撃して打沈むること。
こうちゅう【轟沈】(名) 艦船を砲撃して打沈むること。
こうちゅう【交通】(名) せきかよひ。ゆきまき。——【Com-
munication】人の往復、貨物の運搬又は隔地者間に於け
る相互の意思の通達分ちて運搬と通信との二つを、人の往
復又は物品の運搬は前者に屬し、意思の通達は後者に屬す。
——【きかん】交通機關(名) 【法】運搬に關する機
關即ち道路・橋梁・船舶・鐵道等と、通信に關する機關即ち電
信・電話・郵便等と。——【きょうせき】交通行政
(名) 【政】運輸・通信に關する行政。——【けつせき】交通
經濟(名) 【經】運輸通信事業の經營に關し、最少の勞費を
以て最大の効果を收むることを目的とする經濟。——【けい
きつ】交通警察(名) 【法】交通の危害を防止し、其安全
又は順調を保持することを目的とする警察。——【けいひ
び】交通經費(名) 【政】運輸通信に關して國家又は公共團
體の支出する經費。——【あやだん】交通遮断(名) 【法】
公共の安全をはかるため、或場所を限りて人の交通を禁する
行政處分。——【せき】交通税(名) 【經】廣義にては財

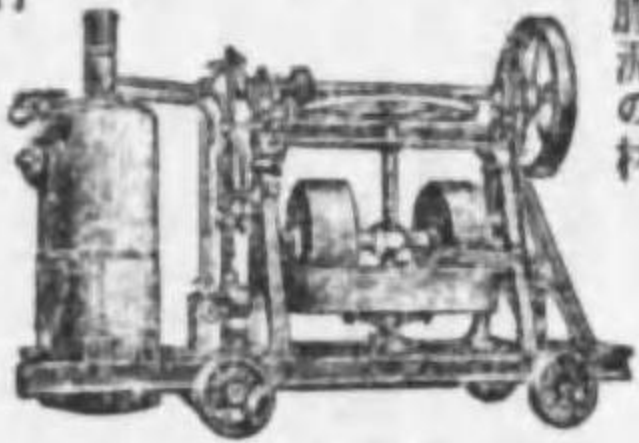
こうちーこうち

貨・價値の移轉に關する租税、換義にては運輸・通行の行為に
關する租税、行爲税の如きは前者に屬し、通行税の如きは後者
に屬す。——【せきさく】交通政策(名) 【政】交通方法に
關する政策、其主なるものは陸運政策即ち道路政策と水運政
策即ち船舶政策と鐵道政策と陸運政策とを指す。——【交通
路】(名) ゆきかよひする路筋。ゆきまき。——【世界の】
こうちゅう【強突張】(名) 強情にして人に従はざ
るもの。
こうちゅう【業突張】(名) とうざらし。「死に掛か
る。
こうちゅう【好都合】(名) つがよきこと。
こうちゅう【動】(動物) (動物) (動物) (動物) (動物) (動物)
こうちゅう【小腕】(名) 小きさ腕。かよき腕。——【力量少な
きこと。わざの未熟なること。】
こうちゅう【高弟】(名) いちばんでえ。かうそく。
こうちゅう【高低】(名) たかきとひくきと。たかひく。
——【あがるとさがること。あがりさがり。高低。】——【かく】高
低角(Angle of sight)(名) 射撃目標と火兵の位置と
を連絡したる線と水平線とによりて作られたる角。——【そ
くりょう】高低測量(Levelling)(名) 器械によ
りて土地の高低を測量すること。普通には水準器を使用す。
——【は】高低波(Transverse wave)(名) 【理】媒體各部
の振動方向の進行方向に垂直なる波、横波。——【み】高低
見(名) 鑛透したる活字の高低を檢査すること。
こうちゅう【航行】(名) 航行之みちのり。
こうちゅう【香亭】(名) 【佛】香爐を安置する小屋、四方
を紗にて貼り、葬儀の行列に用ふ。
こうちゅう【鉸釘】(Rivet)(名) 鐵鋼材料の接合固著
に用ゆる鋼製の釘。——【こう】鉸釘孔(Rivet hole)
(名) 【工】鑄造の鐵鋼材料を鉸釘にて結合する場合に、其接
合部に穿ちて鉸釘を挿入する孔。
こうちゅう【抵抗】(名) てむかひ。はりあひ。抵抗。
こうちゅう【更訂】(名) あらためなほすこと。
こうちゅう【校訂】(名) 出版物などの文字又は文句の誤

こうちーこうち

誤をなはすと。
こうちゅう【考定】(名) かんがへさだむること。又、其かん
なりの極めてむつまじきこと。
こうちゅう【孝悌】(名) 父母に孝行にして、兄弟
なかの極めてむつまじきこと。
こうちゅう【皇帝】(名) (支那)古代天子を皇とも帝とも
稱し、種に合稱して皇帝といひしが、漢の始皇の自ら特に皇
帝と稱せし以來、専ら君主の稱に用ひ天子の尊稱、君主。
こうちゅう【皇弟】(名) 天皇の御弟。
こうちゅう【公延】(名) 公判廷。
こうちゅう【工程】(名) ぶとこのほど。わざのはかどり。
(功程)。
こうちゅう【後提】(名) 【理】三段論法にて、第二次の命題、即
ち、前提と斷案との媒介となるもの。小前提。
こうちゅう【公定價格】(名) 【經】一般にさだめられた
る價格。——【さうは】公定相場(名) 【商】取引所
にて取引買賣したる相場平均、同一商品に對する一般市價
の標準となるもの。——【わか】公定地價(名) 【經】土地
の標準に登記したる土地の價格、地租徵收の標準となるもの。
——【あひい】公定歩合(Official rate)(名) 【商】
中央銀行が商業的擔保により、普通三月以内の短期貸出をな
す場合に、一般銀行の市場歩合以外に特に定むる最低歩合。
こうちゅう【肯定】(名) 然りとすこと。ゆるす。——【Affir-
mation】【論】事物の一致的關係を示すこと、分ちて全稱及
特稱の二となす。——【めすたす】肯定命題(Affir-
mative proposition)(名) 【論】主辭と賓辭との一致的
關係を示す命題、例へば「是は黒し」「是は動物なり」の如し。
こうちゅう【膠泥】(Mortar)(名) 【工】石灰若しくは
「セメント」と砂とを混じ、清水を加へて練りたるもの、石灰を
加へたるを石灰膠泥といひ、「セメント」を加へたるを「セメン
ト」膠泥といふ、土木工事にて石工・煉瓦工等の膠接材料とし
て用途甚だ廣し、モルター。——【膠泥機】(Mortar-
mill)(名) 【機】膠泥を製造する機械、普通には鐵製の皿の中
に於て、水平軸の兩端に鐵製の「ローラー」を取附けたるもの

を、動力を用ひて回転せしむる装置、膠泥の材料を皿の中に容れ、ローラーを回轉せしめつつ清水を添加して製造す。モーター「こんわき」。



【機泥膠】

Act of hostility (名) 法敵 國の戦力を破る目的を以てなす行爲。— 拒敵 (名) 法敵 國に對して我國に抗敵したる罪。— 強敵 (名) 手にあまらばかりつよき敵。— 非常なる (名) すぐれたる。

硫黄 (名) とより成りて眞鍮 (名) の如き色を帯びたる礦物、諸岩石中に分布し、普通結晶面上に條線を具す、質硬くして酸化し易く分解し易し。

こうらん (名) 向點 (名) 天の天體の運動の方向。— 向點 (名) 夏のそら。— 向點 (名) 夏のそら。— 向點 (名) 夏のそら。— 向點 (名) 夏のそら。

こうらん (名) 公田 (名) 古昔、おほやけの所有に屬し、人民に貸貸して地子を納めしめし田。— 交野の井田の制にて、中央の田、其周囲の田を受けし八家のものははるがはるこれを耕して、其收穫を租税とせしものとす。



【井天格】

こうらん (名) 硬度 (名) 物質の抵抗の程度、普通用ふる程度の標準は (一) 滑石 (二) 石膏 (三) 方解石 (四) 螢石 (五) 煨灰石 (六) 長石 (七) 水晶 (八) 黄玉石 (九) 銅玉石 (十) 金剛石の順序にして、金剛石は硬度最も高きものとす。

光度 (名) Luminous intensity (名) 光度の強さを表はす量、天體を除き普通の發光體の場合に於ては、光源より單位距離に於て、光の方向に直角なる單位面積の單位時間に見ゆる光の量、光度の單位は一燭光なり、一燭光とは、蠟燭の一時間に百二十「グレン」燃焼するときの光度をいふ。



【計度光】

等淫賣 (名) 服装又は容貌のたかまざりたる淫賣。— かいん (名) 高等科 (名) 程度の高き科。— かいん (名) 高等科 (名) 程度の高き科。— かいん (名) 高等科 (名) 程度の高き科。

を聞き責を請ひ、状態の全く動物と異なる植物。— せいざく (名) 高等政策 (名) 政治問題の根本に關する政策。— たんぼ (名) 高等探訪 (名) 新聞に關する探訪。— たんぼ (名) 高等探訪 (名) 新聞に關する探訪。

こうとーこうと

上に位せしもの。一のなないあ(勾當内侍)(名) 掌侍
 (ハコ) 四人中の第一位の人。こうたう。一ほうあ(勾
 當法師)(名) 勾當の職にある法師。一利を圓るもの。
 こうとう(叩頭)(名) こうあ。叩首。
 こうとう(口頭)(名) 口さき。口上。一いんに(口
 頭委任)(名) 【法】口頭にて委任契約をなす。一け
 いやく(口頭契約)(名) 【法】口頭によりてなす契約。特
 別の規定なき限りは、法律上書面契約と效力異なる。一
 あけん(口頭試験)(名) こうあ。つあけん。一あん
 り(口頭審理)(名) 【法】裁判所に於ける審理を、口頭にて
 なす。書面審理の對。一すいもん(口頭推問)
 (名) 口頭にて或問題を投げ、これをふかたづねとよぶ。
 一べんろん(口頭辯論)(名) 【法】法廷に於て訴訟
 當事者が、口頭によりて其申立又は陳述をなす。
 こうとう(後頭)(名) 【生】頭のうしろの部分。うしろあ
 ま。一こつ(後頭骨)(名) 【生】頭蓋の後下部を形成す
 る骨。形は貝殻状をなし、後頭部・側頭部・基礎部より成り、其
 間に骨髄を通する大後頭孔を有す。
 こうとう(喉頭)(名) 【生】呼吸器の一部、氣管と舌骨との
 間に位し、空氣を通じ聲音を發する器官なり。九箇の軟骨を基
 礎として頸部・前肉及び粘膜より成る。形は三角形漏斗状をな
 し、上下二口あり、上なるを喉頭前口と稱し、咽頭に開口し
 て鼻腔及口腔に通ず、下なるを喉頭後口と稱し、直ちに氣管
 に連接して肺に通ず。一えん(喉頭炎)(名) 【病】喉頭
 の炎症、諸原因によりて發生す、喉部に灼熱・痒痒の感あ
 りて、聲がなげられ喉嚨・呼吸等を來す、急性と慢性とあり。
 一おん(喉頭音)(名) 喉頭に於て調節せらるる、摩擦音。
 一かた(喉頭加答兒)(名) 【病】こうとうえん。
 一かん(喉頭癌)(名) 【病】喉頭に發生する癌腫、最初
 に増殖を起し、次第で潰瘍、遂に筋腫を來す、聲がなげられ喘
 下苦しく呼吸困難・呼吸困難となる。一け(喉頭
 結核)(名) 【病】喉頭の結核菌、喉嚨・呼吸を發し、疼痛發熱
 を來す。一け(喉頭結節)(名) 【生】前頭部中

こうとーこうと

央の皮下に隆起を呈する喉頭の部分、婦人・小児には著しから
 ざれど、成長せる男子には明かなり。一ふあ(喉頭浮
 腫)(名) 馬匹などの喉頭粘膜炎の結核組織に於ける浮腫性
 腫脹、速かに救治せざれば數時間にして臨終。一まひ
 (喉頭麻痺)(名) 【病】喉頭筋の運動麻痺、諸種の障害に
 一原因す。
 こうとう(紅燈)(名) ほつちやうらん。【原因す】
 こうとう(孝道)(名) 親に事(ふ)ふる道。
 こうとう(香道)(名) 香木を薫(き)き其香を聞きて榮
 しむ道、鼻感を快くし心神を清むるが上、更に諸香の優劣を
 判するの興味あるものとす、禪室にて佛事に薫香の儀あるに
 淵源し、南北朝の初頃には大いに流行し、足利義政の代に至
 りて、其作法を制定せり。
 こうとう(坑道)(名) 地下にうがちたる通路。一
 山・炭山等の坑内の通路、運搬・排水・通氣の用に供す。一
 無職にて、火藥を地下に設置して、爆發せしむる戰術。
 こうとう(講堂)(名) 七堂伽藍の一、講義又は
 説教をなす堂。一學校にて、多數の生徒を集めて講義を
 なし又は儀式を行ふ堂。
 こうとう(校堂)(名) 學校の堂舎。
 こうとう(高堂)(名) 高くかまへたる堂宇。一他人
 の家の敬稱。おたく。
 こうとう(行動)(名) 爲す。行ふ。はたらき。あ
 たら。一黄道(名) 【Ecliptic】 【天】太陽の視
 軌道、赤道に對して二十一度半の傾斜をなす、其赤道に會す
 る點は即ち春分點又は秋分點にして、太陽の其點に來るとき
 は晝夜平分の時なり。一九星にて、百事に吉なりといふ日
 よき日なる日。よき日なら。一黄道吉日(名) 事を舉行
 するに吉なる日。よき日なら。一黄道光(名) 黄道光
 Zodiacal light) 【天】春季日没後西天に、秋季日出
 前東天に見ゆる光、熱帯地方には毎夕これを見ゆるとを得れ
 ど、高緯度の地方には容易に見えず。一黄道帶
 Zodiac) 【天】地球上黄道を圍める部分、古來これ
 を十二分して十二宮といふ。一黄洞(名) 【化】ふんちゆう(黃洞)。一こ
 うと(黄洞) 【黄洞(名) 【化】ふんちゆう(黃洞)。一こ

こうとーこうと

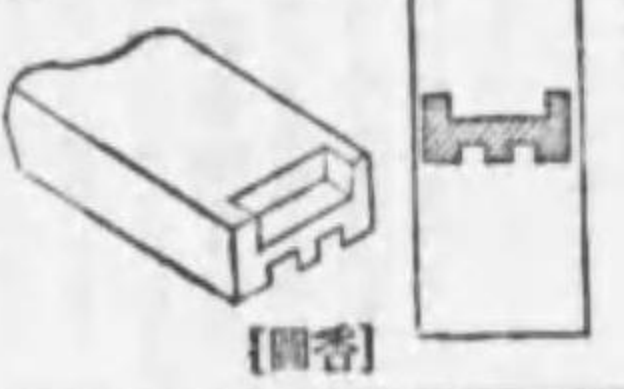
う(黄銅鐵) Copper pyrite) (名) 【鑛】銅・鐵・硫
 黄の化合物、色は黄金に似て結晶は微小、概ね樹状又は毛髮
 狀の集合をなして鑛脈を成す。
 こうと(公道)(名) おほやけの道理。ただしきみ
 ち。一公衆の通行する道路。とほりみち。一きよう(公
 道橋) Highway bridge) (名) 市街・村落にて、人
 馬・車輛の交通用に架設せられたる橋梁。
 こうと(哄堂)(名) 一座のどつと笑ふ。
 こうと(豪宕)(名) 意氣さかんにして常規に違する
 と。一より純粹に入る(句) (文章軌範に出づ)文章を
 學ぶに、始めは筆路の暢達を尚ひ意氣に任せて書き、次第に
 懇達して洗練簡潔となるをいふ。
 こうと(強盜)(名) 【法】暴行又は脅迫の手段を加へ
 て、他人の財物を奪ふもの。劫盜。一さい(強盜罪)
 (名) 【法】強盜の犯罪。一すきん(強盜頭巾)(名)
 「すきん」の一種、麻絲を紺染にしてつくる、賤しき人のかぶ
 るもの。一はん(強盜犯)(名) 【法】強盜をなす者。
 一ほう(強盜) (強盜法師)(名) 強盜をなす者。
 こうと(合同)(名) 二つ以上のものの一つになる
 と。又二つ以上のものを一つにする。
 こうと(講道館流)(名) 柔術の一
 派、嘉納治五郎が明治十五年に創設せる講道館にて、従來行
 れし諸流の柔術を綜合し、新工夫を加へて組織したるもの。
 こうと(香道具)(名) 香道にて使用する諸種の
 器具、即ち香爐・線香・香匙・火筒等。
 こうと(恒等式 Identity) (名) 【数】式中の文
 字に如何なる値を與ふとも、相等しきもの恆に成立する等
 式、(x+1)²=x²+2x+1の如し。
 こうと(高等試験)(名) ぶんかんかうと
 うあけん。一いん(高等試験委員)(名) 【法】
 内閣總理大臣の監督に屬し、高等試験に關する事務及高等文
 官任用の附屬に關する事務を管理する委員。
 こうと(掘土器) Cultivator) (名) 【農】土塊を



【掘土機】

機(ク)土塊を碎き草根を除き耕土を鬆軟
 ならしむる農具。
 こうと(高德)(名) 徳行のす
 べて高きと。
 こうと(公德)(名) 社會公共に對する
 徳義。一あん(公德心)(名) 公德を
 重んじ守る精神。
 こうと(功德)(名) 功と徳と。又、世を益
 し徳を立つること。
 こうと(鑛毒)(名) 鑛物の探掘又は製煉の結果とし
 て生ずる廢棄物に原因する作物の毒。一あけん(鑛
 毒事件)(名) 【社】鑛毒地の被害人民が、鑛毒に對して起
 こす社會運動。一ち(鑛毒地)(名) 鑛毒の被害地。
 こうと(購讀者)(名) 購讀者。一
 購讀者(名) 書籍又は新聞・雑誌などを買ひて讀
 む。一あ(購讀者)(名) 購讀者。一
 こうと(抗毒素) Antitoxin) (名) 【醫】毒素
 を中和して無毒とならしむる作用ある物質、治療上に應用し
 て療效あり、これを含む血清を抗毒素血清といふ。
 こうと(寄居蟲) (名) 【動】がうの内部。
 こうと(坑内)(名) 【工】鑛山又は炭山に於ける坑の
 内部。一かさい(坑内火災)(名) 【工】坑内に發
 生する火災、其原因は石炭の自然發火に基くもの甚だ多けれ
 ど、瓦斯爆發・發煙・煙火等に基くものも少なからず。一
 坑内空氣(名) 【工】坑内に於ける種々の原因に
 よりて汚穢したる空氣、間々危害を生ずるを以て、終始これが
 交通通過に注意すべきものとす。一こう(坑内)
 内構造(名) 【工】坑内に於て開設したる場所を支持する
 ために設備する構造。一あ(坑内實測圖)
 (名) 【工】坑内を實測したる圖面、鑛業者が其鑛業事務所に
 備へ置き、且其原本を鑛山監督局に提出すべきものとす。
 一てん(坑内點燈)(名) 【工】坑内に使用する燈
 火、必要の場所に設置する定置燈と坑夫の各自携帶する携帶
 燈とあり。一ほう(坑内防水堰)(名)

【工】坑内に於て湧水多きを遮断するために設け、若しくは不
 時の出水に備ふるために設くる堰。一ポン(坑内唧
 筒)(名) 【工】坑内の排水用に設置する諸種の唧筒。
 こうと(構内)(名) かこのうち。かまへのなか。
 こうと(口内)(名) 【生】口の内部。口のうら。一えん
 (口内炎)(名) 【病】口腔の粘膜及軟組織に起る炎症。
 こうと(後難)(名) かのわざ。後難。後思。
 こうと(後難) (名) 後のわざ。後難。後思。
 こうと(後入齋)(名) かひいる。後。
 こうと(後入齋)(名) 後入齋。後。
 こうと(公認) (名) 國家・社會の是認してある。一
 きよう(公認) (名) 【宗】國家が他の宗教と區別し
 て、特別の待遇保護を與ふる宗教。
 こうと(後任) (名) 前任者にかはりて其任務に就くと。
 又、其人。一
 こうと(康寧) (名) やすらかなること。おだやかなる
 うら(康寧) (名) 黄色熱。Yellow fever) (名) 【醫】マラ
 リア・性熱病の一種、患者は黒色のものを嘔吐する特徴あり、
 中央・アメリカ及メキシコ等に流行す、氷點以下の時候に
 こうと(口熱) (名) 口中の邪熱。【ては發生せずといふ。
 こうと(紅熱) (名) もの熱して紅色となること。
 こうと(行年) (名) よはひ。とし。
 こうと(行年) (名) 年壽たかきこと。又、其人。
 こうと(光年) (名) Light year) (名) 【天】光が一年
 間に達する距離、恆星の距離は甚だ大にして、星の如き單
 位にては測り難きを以て、光年に測る。
 こうと(行囊) (名) ゆくすま。又、晩年。
 こうと(膠囊) (名) カプセル。
 こうと(後腦) (名) 【生】腦體の一部分、延髄の上背
 面にありて、大腦の下に位するもの、縦線によりて左右に區
 分せられ、表面には數多の溝ありて横走す、全身の運動を



【開香】

主宰する機能ある所。
 こうと(功能) (名) 働き。あるし。(効驗)。一いざ
 とはたらき。一が(機能書) (名) 功能の次第を書
 きたるもの。
 こうと(豪農) (名) 財産多く勢力ある農家。おほひや
 こうと(硬膜) (名) 【生】腦脊髄膜の一、硬
 膜とも稱す、濃厚なる纖維膜にして、頭蓋腔内には直ちに
 骨面に固着し、脊髄管内には腦筋を以て覆く管理に接す。
 一えん(硬膜炎) (名) 【病】硬膜に發生する炎症、
 種々の疾患に發せし、中年及老年に多く女子に少なし、多く
 は運動性不安を起し、稀に卒中樣發作を來す。
 こうと(香輿) (名) 【佛】
 小さな輿の内に香をたく器具。
 こうと(香圖) (名) 建床
 の落掛又は上段板などを床柱に取附
 ける仕口、横木の端を下圖の如く缺きて柱
 に仕込むもの。
 こうと(鴻巣雜) (名) 雜人形の
 一、武藏國鴻巣より製出せるもの、もと一
 基の立雜にして頗る異様の姿なりしが、後
 には其制一變して粗製廉價のものとなれり。
 こうと(香殿) (名) かうのとのりを見よ。
 こうと(鶴鳥) (名) 【動】こふのとりを見よ。
 こうと(香物) (名) 食品の名、野菜を炒・鹽・味
 噌・粕などに漬けたるもの。かうかう。つけもの。
 こうと(剛者) (名) すぐれてつよき人。
 一たけもの。一剛者。強者(名) すぐれてつよき人。
 こうと(硬派) (名) 堅く反對の意見を執る黨派。
 新聞社又は雜誌社にて、政事方面の擔當。一硬派記者(名)
 新聞社又は雜誌社にて、硬派の記事を擔當する記者。
 こうと(光波) Light wave) (名) 光の波動。
 こうと(耕馬) (名) 【農】耕作に使用せる馬。
 こうと(行馬) (名) こまよせ。こまつなぎ。一端末に

こうとーこうと

こうとーこうと

こうとーこうと

こうば

釘をうちつけたる状(2) 敵騎の突入を防ぐために、障頭に植

て設けて防禦物とするもの。

こうばい(工場)一名 こうちやう。

こうばい(好配)一名 よきつれあひ。

こうばい(交配)一名 種類の異なる雌雄の配合。

こうばい(高配)一名 他人の配慮の敬称。ごんばい。

こうばい(高配海氣)一名 海氣の都合に編織を用ひ

て被覆又は椅子織を織り出したるもの。

こうばい(向背)一名 またがよとそむくと。つくとはなる。

こうばい(向拜)一名 神社の前に供出でたる部分にして、参詣人の禮拜する所。

こうばい(向拜柱)一名 向拜の前面にありて、打柱(2)を受くる柱。

こうばい(荒廢)一名 あれたすた。くづれはつること。田圃一す。

こうばい(荒廢田)一名 耕作せずあれたる田。

こうばい(後輩)一名 後に生まれ又は後より進む人。

こうばい(興敗)一名 おこるとやぶる。

こうばい(興廢)一名 おこるとすたる。(興亡)。

こうばい(功績)一名 功績を顕示するもの。

こうばい(黄梅)一名 熱して黄色を呈したる梅の實。

こうばい(黄梅雨)一名 梅の實の黄熟する頃のため。

こうばい(紅梅)一名 紅梅の一種、花冠の紅色なるもの。

こうばい(紅梅色)一名 紅色若しくは赤に紫を帯びたる色。

こうばい(紅梅織)一名 経緯又は緯経若しくは経緯共に太さの異なる二種以上の経を用ひて、表面に高低をあらはしたる平織の織物。

こうばい(紅梅眼)一名 「かさね」



【拜向】

こうば

の色目、表は紅梅色にして裏の藍方なるもの。――にほひ

梅色を薫ねたるもの。――ばかま(紅梅袴)一名 紅梅

色の袴。――もち(紅梅餅)一名 菓子の名、砂糖を入れて

て捏(こね)蒸して過きたる粉類(2)餅を、紅白包み合はせて梅

花状に切りたるもの。――やき(紅梅焼)一名 菓子の名、

細粉(2)粉と米の粉とに砂糖を混ぜて捏(こね)たるを、薄く

梅花状に切りて焼きたるもの。

こうばい(勾配)一名 傾斜の度。「山の」。――身のこな

し。――せん(勾配線)

Grade line)一名 鐵道にて勾配の連続する線路。

――psu(勾配抵抗)一名 鐵道線路の傍にたてて線路の勾配をえるす

標、汽車の運轉手にこれによつて速力の加減をなす。

こうばい(公賣)一名 法)入札又は競賣を以て物件を賣り

はらふと。競賣に附する。――まよふん(公賣處分)

一名 法)官廳が税金滞納者の家産などを、強制執行をなし

て公賣に附し其運額を補ふと。

こうばい(購買)一名 あがなひかよと。かひとと。

――くみあひ(購買組合)一名 法)産業組合の一、産業

又は生計に必要な材料物品を購買して、これを組合員に分

配することを目的とする組合、即ち原料品又は日用品を卸賣に

して、これを組合員に小賣するもの、仲介人を省きて購入上

の弊害を除き、經費を減して安價に購入し、普通に現金又は

前金にて賣却するが故に、掛費上より生ずる手数料及經費を省

く。――ごんいん(購買婚姻)一名 世)男子が女子を娶

るに、其家に對して相當の代價を支拂ふを要する婚姻。

――りよく(購買力)一名 法)物品をあがなふ財力。

こうばい(公倍数)一名 Common multiple)一名 法)數面の數又は整式にて割り切れる數又は整式。

こうばい(黄白)一名 黄と白と。

こうひ(公比)一名 Common ratio)一名 法)等比級數にて、各項に乗じて其各項を得る一定の數。

こうひ(交尾)一名 生)鳥獸魚などの雌雄兩性の交接。つむと。つがよと。――き(交尾期)一名 生)鳥獸魚などの交接を行ふ時期。さかりと。

こうひ(後備)一名 後のそなへ。あとぞなへ。ごづめ。

――えき(後備役)一名 軍人服役期の一、現役年限に達したるもの又は豫備役を経過したるもの

の服役するもの、本籍所在師管の兵籍に編入せられ、將校及同

相當官は師團長の管轄に屬し、下士以下は師團司令官の管

轄に屬し、服役期間は、兵卒にては陸軍は十年とし海軍は五

年とす、下士以上にては、陸海軍共に種々の規定ありて同一

ならず。――ごん(後備軍)一名 後ぞなへの軍隊。ごづめ。戰時又は事變に際し、後備役にある兵士を以て組織したる軍隊。

――ごん(行秘書)一名 即ち、博く書史に通じたる學者。こうひ(合比)一名 法)二つの比相等しければ、他の比の前項と後項との和と其後項との比は、他の比の前項と後項との和と其後項との比に等し。

――ごん(合百)一名 法)取引所の相場に基きて行ふ賭博、次の立會又は翌日の相場を見越して一定の賭金を提出し、其勝負によりて賭金を授受するもの。「と。演習の一」。こうひ(講評)一名 理由を説きて批評を加ふる。

――こうひ(高評)一名 よき評判。ごひひやう。こうひ(好評)一名 評判のよきと。

――こうひ(公評)一名 世)上の評判。――偏頗なき批評。――敵にあり(句) 偏頗なき批評は、味方の批評にあらずして、却て敵のする批評なり。「間に披露すること。世

こうひ(公表)一名 おもてむきに發表すること。世

こうひ(業病)一名 惡業のむくいに發生したる

こうひ(喉腫)一名 腫(2)硬骨類の一日、腫(2)の食道と連なるもの、腫脹は存するものと缺けたるものとあり、「こひ」うなぎ」等これに屬す。

こうば

ひ白は銀をいよ金銀の異稱。――を散す。

こうばく(厚薄)一名 厚きと薄きと。あつと。

こうばく(紅白)一名 くれなゐとあると。赤と白と。――

あひ(紅白試合)一名 紅白兩組に分かれてなす試合。――まよふ(紅白勝負)一名 紅白兩組に分かれ

てなす勝負。

こうばく(廣漠)一名 ひろくしてはてなきと。

――こうばく(香箱)一名 香を入る、器(2)香合)――そつ

くる(句) 猫が脊を高くし前肢を屈めて寝る。

――こうばく(香芳)一名 香を高くし前肢を屈めて寝る。――か。

――こうばく(攻伐)一名 攻め伐つこと。

――こうばく(毫髮)一名 毛一すぢ。――わづか。いささ

――こうばく(香華)一名 佛に奉る香と花と。

――こうばく(貢馬奉行)一名 鎌倉及室町幕府の職名、朝廷に進獻する馬匹の奉りしもの。「きと。

――こうばく(業腹)一名 いかりに堪へぬと。いまいまし

――こうばり(甲張)一名 家屋などの傾き倒るゝを支持す

るために、あてがひおく材。――強くして家を倒す(句)

程度をこし強ひて支持せんとするがため、却て其物事を喪失するに由。

――こうばり(根切)一名 土の崩れ落つるを防ぐた

――こうばり(強張)一名 強情を張り通すと。

――こうばり(晴曇)一名 化)破産宣告。

――こうばん(鋼板)一名 板状をなせる鋼鐵。

――こうばん(鋼版)一名 鋼板を加熱して軟からしめて彫刻

をなし、後更に炭と共に熱して鋼に復せしめて印刷に供す、最も緻密なるものを印刷するに適し、製造頗る複雑を要す。

――こうはん(行犯)一名 法)積極的行爲によりて成立す

る犯罪、例へば殺人罪の新殺又は毒殺の類。不行犯の對。

――こうはん(甲板)一名 船舶のかんばん。――

ま(甲板室)一名 Super-structure)一名 上甲板上に於ける船體及船室の總稱。――さみ(甲板積)一名 Deck cargo)一名 法)船舶に積み入るゝを得ざる特殊の貨物を、

こうび(廣鼻類)一名 動物)鼻骨類の一種、哺乳

動物に屬し、くもさる等これに屬す。

――こうびん(辛便)一名 便宜よきたより。

――こうばん(後便)一名 またたより。次回の便。

――こうばん(耕夫)一名 ひやくちやう。農夫。

――こうばん(坑夫)一名 鑛山又は炭山の採掘事業に従事す

る労働者。かねはり。せきたんはり。――がしら(坑夫頭)

一名 坑夫の取給をなす頭分。

――こうふ(交付)一名 法)物件の引渡。ひきわたした。てわ

――こうふ(職夫)一名 妻なき獨身男。やもを。

――こうふ(鑛夫)一名 鑛山にやとはれて鑛物を採掘する

人夫。かねはり。――めいぼ(鑛夫名簿)一名 鑛業者が鑛業事務所に備へおくべき鑛夫の名簿。

――こうふ(公布)一名 一般に曉(2)れ示す。ふれわたした。布告)。

――こうふ(功封)一名 古昔、五位以上の人に、勳功によりて賜

る。

――こうふ(工夫)一名 土木工事などに従事する役夫。

――こうふ(講武)一名 武道を講じ習ふと。武技をきたひ

ねと。――まよ(講武所)一名 徳川幕末に、旗本武士をして武術を練習せしむるために設けられたる所。

――こうふ(荒蕪地)一名 荒蕪したる土地。

――こうふ(口賦)一名 支那にて古來行はれし入頭税、即ち人別によりて賦課したる租税。

――こうふ(公武)一名 公家(2)と武家(2)と。朝廷と幕府と。――

がつたい(公武合體)一名 徳川幕末に、公武の協同一致を圖り、國事を處理せんとせし一派の主張。

――こうふ(工部)一名 支那の六部の一、工事に關する政務を掌りし官司。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

部卿)一名 工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。――まよ(工部省)一名 支那の工部省の長官。

こうひ

世人のいひ傳ふる所。いひつたへ。――に遺る。

こうひ(公費)一名 官府又は公共團體の費用。

こうひ

世間のいひ傳ふる所。いひつたへ。――に遺る。

こうひ(公費)一名 官府又は公共團體の費用。

こうひ

世間のいひ傳ふる所。いひつたへ。――に遺る。

こうひ(公費)一名 官府又は公共團體の費用。

こうほーこうま

色を呈す。いぬむぎ。(ろ)からすむぎ。
こうほく(高木) (名) たけたく立ちたる木。
風に折らる(句) 高木の風あたりはげしく、とかく折ら

こうまーこうみ

(自負)。増長して身のほどに過ぎたる事をする。
ちき(名) 年よりまてにくらぶ。
ちやく(名) ちやく(名) 年よりまてにくらぶ。

こうみーこうめ

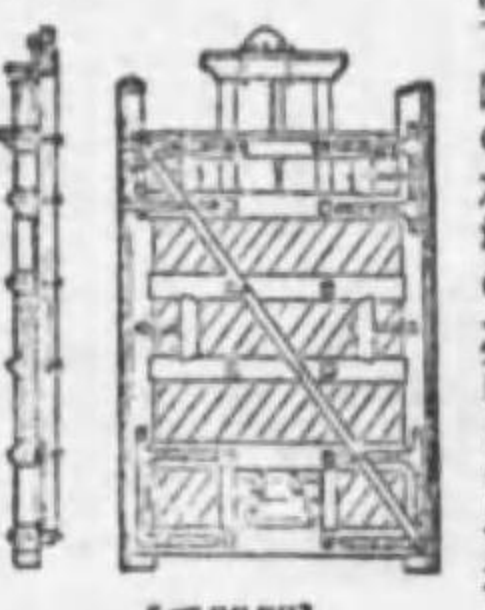
こうみ(光明) (名) 発射する光輝。ひかり。
がやき(名) 悪徳博愛、其他すべて心中又は世上の煩悩。
愚昧等の暗黒を照らして、信仰・道徳又は智慧の力を興ふる

こうめーこうも

こうめい(抗命) (名) 長上の命令又は制止に反抗し又
は服従せざる。
こうめい(抗命) (名) 長上の命令又は制止に反抗し又

こうもーこうや

こうもん(開門) (名) 工船船をして高低
の差の異なる水面に昇降せしむる装置。
こうもん(開門) (名) 工船船をして高低



【開門】



【開門】

こうやーこうや

こうや(甲夜) (名) 五夜の一、即ち現今の午後八時。
こうや(噴野) (名) 風雲をさへざるものなきひろびろ
としたる野原。ひろきは(噴野)

こうやーこうや

程の深き関係ありしものといふ。
こうやどろふ(高野豆腐)一名 紀伊國高野山より製
出するこぼり豆腐。



【高野】

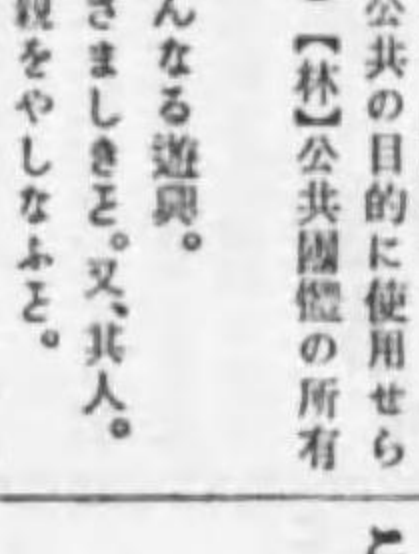
こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。

こうやーこうや

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。



【用効】

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。

こうやーこうや

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。



【杉葉高】

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。

こうやまき(高野槇)一名 高野山金剛峯寺にて印行
より全国に出でし僧徒、もと時宗の僧侶の高野山に寄寓せし
ものに始るといふ。【動】たがめ。

こうらーこうら

こうら(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名



【塔寶麗高】



【子臺麗高】

こうら(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名

こうらーこうら

こうら(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名
高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名 高麗(高麗)一名

こうらーこうら

ごせしごせち

ごせしごせち 一家を構成して其一家を構成せる人の...



〔ちせご〕

ごせち〔五節〕(名) 五節とは...

ごせちごせり

ごせちごせり 定められしものといふ、後には大召會にのみ行はる...

ごせちえい〔五節會〕(名) 五つの節會、即ち、元日・白馬...

ごせんごせん

ごせん〔古銭〕(名) 古昔通用したる錢。一か古銭家...

ごせん〔姑洗〕(名) 十二律の一。陰曆三月の異稱。

ごせんごせり

ごせんごせり 〔御膳奉行〕(名) 徳川幕府の職名、若年寄の管下...



〔橋線路〕

ごせんごせり 〔御膳〕(名) 貴人の敬稱。一さま御前様...



〔取履草小〕

ごせんごせり 〔御膳〕(名) 膳の敬稱。一めし。一か御膳...

ごせんごせめ

ごせんごせめ 〔御膳〕(名) 膳の敬稱。一めし。一か御膳...

こねり【木練】(名) こねりがき。—がき【木練梯】(名) 枝つきの鐵筋したる梯の實。きざしは、水を混じてまぜかへす。③かきまはす。④冷評す。難問す。こねる【願念】(名) ①なさをかくること。かへりみ。②後事を心にかけておもふこと。願慮。

このか【木練】(名) こねりがき。—がき【木練梯】(名) 枝つきの鐵筋したる梯の實。きざしは、水を混じてまぜかへす。③かきまはす。④冷評す。難問す。こねる【願念】(名) ①なさをかくること。かへりみ。②後事を心にかけておもふこと。願慮。

このし【木練】(名) こねりがき。—がき【木練梯】(名) 枝つきの鐵筋したる梯の實。きざしは、水を混じてまぜかへす。③かきまはす。④冷評す。難問す。こねる【願念】(名) ①なさをかくること。かへりみ。②後事を心にかけておもふこと。願慮。



【(二)ひれがはのこ】

このは【木練】(名) こねりがき。—がき【木練梯】(名) 枝つきの鐵筋したる梯の實。きざしは、水を混じてまぜかへす。③かきまはす。④冷評す。難問す。こねる【願念】(名) ①なさをかくること。かへりみ。②後事を心にかけておもふこと。願慮。



【(三)葉木】

このみ【木練】(名) こねりがき。—がき【木練梯】(名) 枝つきの鐵筋したる梯の實。きざしは、水を混じてまぜかへす。③かきまはす。④冷評す。難問す。こねる【願念】(名) ①なさをかくること。かへりみ。②後事を心にかけておもふこと。願慮。

このは【木練】(名) こねりがき。—がき【木練梯】(名) 枝つきの鐵筋したる梯の實。きざしは、水を混じてまぜかへす。③かきまはす。④冷評す。難問す。こねる【願念】(名) ①なさをかくること。かへりみ。②後事を心にかけておもふこと。願慮。



【パイバコ】

たるもの。●小さままきわり。
こわる「段」(自)「こはる」を見よ。
こわる「強」(自)「こはる」を見よ。
こわわき「解法」(名) 算術を用ふる技。

こ系「副」 一同の聲にて。個々の聲にて。
こ系のはかせ「音博士」(名) おんはかせ。
こを「小緒」(名) 半貫の緒。
こを「小桶」(名) 小き桶。
こを「小男」(名) わかもの、わかろど。
こを「小女」(名) 幼年の女、少女。
こを「小女」(名) 幼年の女、少女。
こを「小女」(名) 幼年の女、少女。

こん「名」 鐘の音、一と成る鐘。
こん「五」(数) 五の詠、一合。
こん「あつ」(根) 根「Root」(名) 根が土壌中より水を吸収し、これを茎葉に向けて押し上げる力。
こん「あん」(今案) (名) 目下のかんがへ。
こん「い」(懸意) (名) ねんごろ。
こん「い」(混) (名) 混じて一となる。
こん「いと」(紺) (名) 紺色の緒。
こん「いろ」(紺) (名) 紺色。



【ちがんこ】

こんか「渾家」(名) かないぢや。全家。
こんか「言下」(名) 一言のもと。
こんか「今回」(名) このたび。こんど。
こんか「根」(名) こんや。
こんか「根」(名) こんや。
こんか「根」(名) こんや。
こんか「根」(名) こんや。
こんか「根」(名) こんや。

こんき「権教」(名) 佛大乘に入る権徳となる方。
こんき「権」(名) 佛の口。
こんき「権」(名) 佛の口。
こんき「権」(名) 佛の口。
こんき「権」(名) 佛の口。
こんき「権」(名) 佛の口。

Concrete mixer (名) 工部局・橋梁等の建築に於ける如く、多量の混泥土を要する場合、各材料を攪り合はするに使用する機械。
こん「せん」(混泥土) (名) 船。
こん「せん」(混泥土) (名) 船。
こん「せん」(混泥土) (名) 船。
こん「せん」(混泥土) (名) 船。
こん「せん」(混泥土) (名) 船。

こんしーこんす

暇乞(句)この世のわかれ。本にわかれ。
こんた(今)代(名)いまのよ。今世。
こんた(今)代(名)いまのよ。今世。
こんた(今)代(名)いまのよ。今世。

こんすーこんせ

こんす(い)根(名)背後につきゆく。
こんす(い)根(名)背後につきゆく。
こんす(い)根(名)背後につきゆく。



こんせーこんた

こんせ(今)夕(名)こよひ。こんや。
こんせ(今)夕(名)こよひ。こんや。
こんせ(今)夕(名)こよひ。こんや。



こんたーこんち

こんた(今)代(名)いまのよ。今世。
こんた(今)代(名)いまのよ。今世。
こんた(今)代(名)いまのよ。今世。

こんちーこんて

こんち(直)類(名)根根類等に區別す。
こんち(直)類(名)根根類等に區別す。
こんち(直)類(名)根根類等に區別す。



こんてーこんた

こんて(一)ものと思惟せられ、當時已に使用せられしが如し。
こんて(一)ものと思惟せられ、當時已に使用せられしが如し。
こんて(一)ものと思惟せられ、當時已に使用せられしが如し。

こんとーこんに

にて盛んに用ひらるゝ特殊の小舟、船體は細長、船首及船尾は船形に突出し、船中の裝飾を施す、中央に屋形ありて内に乗客席を設け窓を穿つ、舟士は船尾の甲板の上に首に面して立ち、軽き櫂を操りて舟を走る。



〔一〕フアドンゴ

コンドール [Condor] (名) 【動物】



〔ルドンゴ〕

コントラス [Contrast] (名) 【対照】

にて、低音部より更に低音階に属する部分、器樂にては、低音の樂器にて、「セロ」の大型なるもの又は大型喇叭の最大なるもの。

コントラス [Contrabass] (名) 【器樂】

にて、低音部より更に低音階に属する部分、器樂にては、低音の樂器にて、「セロ」の大型なるもの又は大型喇叭の最大なるもの。

コントラス [Contrabass] (名) 【器樂】

にて、低音部より更に低音階に属する部分、器樂にては、低音の樂器にて、「セロ」の大型なるもの又は大型喇叭の最大なるもの。

こんねーこんは

食品の名、「こんにやくだま」の粉末を水にて捏ね、粘氣の生じたるとき、これを石灰乳を入れたる湯の中に入れ、暫く煮立てて後、取り出して型に入れたるもの。又、「こんにやくだま」を砕き、蒸して塊を、石灰を混じりて製す。――「あたまたま」【蒟蒻頭】(名) 柔かくして髪を剃るに困難なる頭。――「いも」【蒟蒻芋】(名) 〔植〕天南星科の多年生草本、我國各所の山地に栽培せらる。地下に巨大なる球莖あり、葉柄これより直立し、高さ一尺五寸許、太さ指大に達す、葉片は複雑に分裂して鳥足状をなす、夏日、葉に先ちて花を老根にのみ生じ、佛僧を有する肉穂花序をなして紫褐色を呈す。――「だま」【蒟蒻球】(名) 「こんにやく」の球状をなす地下莖を用ひて「こんにやく」を製し、又、洗上糊、洗糊糊に供せらる。――「ばん」【蒟蒻版】(名) 寒天版。――「ぼん」【蒟蒻本】(名) あやればん。こほん。

こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。

こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。

こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。

こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。

こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。

こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。

こんねん [今年] (名) この年。ことし。【本年】。

こんはーこんふ

パスと稱す、其他種物「コンパス」比例「コンパス」三角「コンパス」懐中「コンパス」等種あり。(あ)またの長さ。またぐらゝを指し張るる長さ。「が長さ」【Compass】らばん(羅針盤)。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

こんはーこんふ

パスと稱す、其他種物「コンパス」比例「コンパス」三角「コンパス」懐中「コンパス」等種あり。(あ)またの長さ。またぐらゝを指し張るる長さ。「が長さ」【Compass】らばん(羅針盤)。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

コンバーゼーション [Conversation] (名) 會話。對話。

不便あるため、支那商人を雇用して商取引をなさしめしに起因し、次第に變化して今日に於ては、多くは保証金又は資金を交出して、請負的に取引をなす獨立の商人となり、其從事する業務により、銀行買辦・汽船買辦・倉庫買辦・一般商買辦等あり、いづれも給料又は報酬の外に、手数料及差金等を獲得するを以て、巨富を致すもの多し。ばいせん。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

コンフリクト [Conflict] (名) 葛藤。衝突。争議。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんぼろ [混紡絲] (名) 異質の纖維を混合して紡績したるもの如きこれなり。

こんふーこんは

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】



〔二〕棒根

こんふーこんは

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】

こんふ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむーこんら

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむーこんら

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむーこんら

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむーこんら

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんむ [牛蒡] (名) 【植物】

こんりーこんれ

こんりゅう(根瘤) (名) 根に生ずるこぶ。...



衣師龍宮

こんりゅう(今良) (名) 古昔、賤民より新に良民となり、主殿寮に属して禁中の掃除を掌りしもの。...

こんれーき

こんれい(權令) (名) 縣令に匹敵し縣の地方長官、明治四年これを置き、同十一年廢止せらる。...

やぶ

さ(坂) (名) さか。さ(矢) (名) さ。さ(差) (名) さがひ。...

さーさい

さ(然) (副) さやう。本か。「思ひ給へど」。さ(感) 人を誘ひ又は驚かすに發する聲。...

能力。●木材又は石材の立積の單位。●容積の單位、即ち勾...



犀

さい(宰) (名) さ。つかさ。さい(最) (名) 最も勝れたる。...

さい(塞) (名) とりで。である。(塞) くまひ。さい(差) (名) さ。さい(左) (名) さだり。...

さい(在) (名) 在位(名) 天子の御在位の御守。さい(在) (名) 在位(名) 天子の御在位の御守。...



蝶

さい(裁) (名) 裁可(名) 君主が臣下の奏議を親裁して、許可したまふ。さい(裁) (名) 裁可(名) 君主が臣下の奏議を親裁して、許可したまふ。...

さい(名)鳥をさして捕ふる竿、竿頭に鳥(さい)を塗りつく。さいとん(名)細屯(名)わた(鶏)。

さいのろじ(名)正しき小立方體。さいのろじ(名)心理学の原語たる「サイコロ」(Psychology)をもちりていふ事にのろきと、妻のいひなり次第になる。又、其人。



(一)配采

さいは(名)さいはじけたる人。さいは(名)さいはじけたる人。さいは(名)さいはじけたる人。さいは(名)さいはじけたる人。



(二)菱幸

さいはん(裁判) (名) 是非曲直のさばき。 (法) 訴訟を管理設備して法規の適用を定むると、分ちて判決・決定・裁決の三とす。 (法) 裁判確定(名) (法) 裁判の確定判決となる。 (法) 裁判官(名) (法) 裁判所を組織し裁判上の事務を取扱司法官吏。 (法) 裁判所(名) (法) 裁判所が裁判を行ふ権限。 (法) 裁判官(名) (法) 裁判所が裁判を行ふ権限。 (法) 裁判官(名) (法) 裁判所が裁判を行ふ権限。

さいはん(裁判) (名) 是非曲直のさばき。 (法) 訴訟を管理設備して法規の適用を定むると、分ちて判決・決定・裁決の三とす。 (法) 裁判確定(名) (法) 裁判の確定判決となる。 (法) 裁判官(名) (法) 裁判所を組織し裁判上の事務を取扱司法官吏。 (法) 裁判所(名) (法) 裁判所が裁判を行ふ権限。 (法) 裁判官(名) (法) 裁判所が裁判を行ふ権限。



(船氷砕)

さいはん(裁判) (名) 是非曲直のさばき。 (法) 訴訟を管理設備して法規の適用を定むると、分ちて判決・決定・裁決の三とす。 (法) 裁判確定(名) (法) 裁判の確定判決となる。 (法) 裁判官(名) (法) 裁判所を組織し裁判上の事務を取扱司法官吏。 (法) 裁判所(名) (法) 裁判所が裁判を行ふ権限。 (法) 裁判官(名) (法) 裁判所が裁判を行ふ権限。



(細胞)

さうん—さおり

め自己の位置不明なとき、海底の深淺、地質を察りて其位置を推測し、又は大砲、汽笛などの音響を發し、其反響の如何によりて、陸岸・神角の遠近を推測する等これなり。

さか—さかう

田(う)の類なるべしといふ。「一の帯」。

さかう—さかく

さかうち(逆討)(名)敵を討たんとし、却て敵に討たると。かへりうち。

さかく—さかし

さかく末(逆公事)(名)訴へらるべき客のものが、訴ふべき客のものを相手取りて訴ふこと。

さかし—さかす

さかしらなり。こざかし。——がほ(賢顔)(名)さかしがるかほつき。

さかす—さかつ

さかつ(逆討)(名)敵を討たんとし、却て敵に討たると。かへりうち。



【めざたかさ】

さきつーさきは

さきつーさきは [咲績] (自、か四) つづきて咲く。
さきつーさきは [先頃] (名) (さきの頃の義) さきごろ。せんころ。さきつひ。さきつころ。(往日)。

さきはーさきま

さきははじめ [咲始] (名) さきはじむと。
さきははじめ [咲始] (自) 「さきはじむ」の流。
さきはしり [先走] (名) さきはしむの流。又、其者。
さきはしり [先走] (自) さきはしむと。又、其者。
さきはしり [先走] (名) さきはしむと。又、其者。

さきみーさきよ

さきみだれる [咲亂] (自) 前線の流。
さきみだれる [先武者] (名) 先頭に立つ武者。
さきも [先物] [Future] (名) (商) (い) 將來一定の時期に於て受渡すべき條件にて、買賣契約をなしたる商品。
さきも [先物] [Future] (名) (商) (い) 將來一定の時期に於て受渡すべき條件にて、買賣契約をなしたる商品。

及行状を取調べて給與する賞金。一ひ [作業費] (名)

さきよ [座興] (名) 一座の興を催すべき遊藝又は遊戯。
さきよ [座興] (名) 一座の興を催すべき遊藝又は遊戯。
さきよ [座興] (名) 一座の興を催すべき遊藝又は遊戯。

さきん [差金] (名) [商] 差引したる残金の金額。一ば

さきん [差金] (名) [商] 差引したる残金の金額。一ば
さきん [差金] (名) [商] 差引したる残金の金額。一ば
さきん [差金] (名) [商] 差引したる残金の金額。一ば

さく [尺] (名) さく。

さく [尺] (名) さく。
さく [尺] (名) さく。
さく [尺] (名) さく。



さきよーさきん

さきんーさく

さくーさく

さくーさく

さくえん〔錯鹽〕Complex salt〔名〕〔化〕二種以上の鹽の結合より成れる物質にして、水溶液に於て新に「イオン」を造るもの總稱。

さくから〔作柄〕〔名〕●産物のやうす。●製作のおもむき。

さくぎょう〔作曉〕〔名〕きのふのあさ。

さくぎょう〔作業〕〔名〕さげふ。

さくぐむひみひ〔裂〕〔他、ま四〕さくむ。

さくけつ〔作毛〕〔名〕指の毛。

さくけつ〔朔月〕〔名〕〔天〕太陽の地球と太陽との中間にありて三天間の一直線上にある時の朔、太陽の太陽の光を受けて輝ける部分は、全く地球に反対せるを以て、これを望むとさくけん〔朔減〕〔名〕けつりへすと。「政費」。「を待す。

さくけん〔策源〕〔名〕●軍地の軍隊が需用を仰ぐ背後の地點。●「ち」策源地〔名〕●東源と定められたる場所。●海軍根據地。●東路を突出し動作を指示する場所。

さくじ〔錯誤〕〔名〕●あやまり。まらひ。擬律の「」。●〔法〕認誤と對照と又は意思と事實との一致せざると、例へば甲地を乙地と誤り、甲地を眞はんとして乙地を眞ふの類。

さくじよ〔錯語症〕〔名〕●「病」精神の障礙にもとづき、言語の不明なる病。

さくさつ〔昨歲〕〔名〕さねん。こぞ。

さくさつ〔吸噴〕〔名〕●口々にひたつるさま。●互に呼びよさま。●かまびすしさ。

さくさつ〔鑿鑿〕〔名〕●言のよく通中するさま。●一時勢に中たる。●鮮明なるさま。

さくさく〔名〕●たやすく●さくさくはささむむ。●積もりたる物を風みて歩むさまの音。

さくさく〔名〕●前縁の意を稱していふ。●固きものなどの多く集まる音。●金を持し。●すたすたに切りさいなむ音。●大根を一切る。

さくさつ〔錯雑〕〔名〕入りまじると。みだれまじると。

さくさん〔杵蠶〕〔名〕●動〕蠶類の昆蟲、大形の蛾にして、體及翅は黄褐色にして白斑を交ふ、幼蟲は綠色にして柞即ち柞又は柞の葉を食して成長し繭を結ぶ、繭は蠶のより大形にして褐色を帯ぶ。●一木〔杵蠶絲〕〔名〕柞蠶の繭より採取したる絲、褐色を呈し光澤あり、品質極めて絹絲に類似し、水に入るとは縮縮するを缺點とすれど、價格低廉なるを以て、需要年々増加し、これを原料としたる絹織物などは、絹織物を用いたるものに優ると稱せらる。生産地は支那を主とす。

さくさん〔醋酸〕Acetic acid〔名〕〔化〕刺戟性の香気ある無色の液體にして酸性の弱き一價基酸、酢(ス)の主成分をなすもの。酒類を空気に放置するとき酸味によりて生ず。近來多くは木材を乾溜して生ずる酸より製す。●アルミニウム〔醋酸〕Aluminium acetate〔名〕〔化〕硫酸アルミニウムに醋酸鉛を用せしめて得る鹽、其水溶液は媒染劑として盛んに使用せらる。●カルシウム〔醋酸〕Calcium acetate〔名〕〔化〕木酢液より醋酸を分離するとき中間物として得らる。白色の結晶物、乾溜して「アセトン」を製するに用ひらる。●キン〔醋酸〕Ketone acetate〔名〕〔化〕糖類、種類甚だ多く、酒精より醋酸を生ずる性を有し、吾人の食料に供する(糖)は、専ら此類糖によりて生産せらる。●ソーダ〔醋酸〕Sodium acetate〔名〕〔化〕炭酸ソーダを醋酸にて分解するによりて得らる。無色の結晶、水に溶解し易し、これを熱して結晶水を除けば、吸湿性強き脱水物となる。●なまり〔醋酸〕Lead acetate〔名〕〔化〕酸化鉛を稀醋酸に溶解し蒸發して得たるもの。即ち鉛毒。●はつこう〔醋酸〕Acetone fermentation〔名〕〔化〕醋酸菌が酒精を變じて醋酸となす醱酵作用。●土。●さく(策士)〔名〕はかりごとにも富みたる人。まごとも。●さく(形)〔名〕こはれやすし。さげやすし。もろし。さく(さ)〔名〕さくさくなり。

さくせい〔鑿井〕〔名〕●鑿床の探究又は石油の汲揚若しくは地質調査等のため、地中に鑿孔を穿つこと。●「鑿井機」〔名〕●鑿井に使用する器械、衝動式と回転式との二種あり。

さくせい〔昨夕〕〔名〕きのふのゆふ。

サクセス〔Success〕〔名〕成功。

さくせつ〔錯節〕〔名〕入りまじりて堅くむすばれたる木の節。●轉じて、混雜して處理しがたき事件。

さくせん〔策練〕〔名〕●軍隊の作戦目標に達する線路。

さくせん〔作戰〕〔名〕●軍隊の敵に對して行ふ戦争の方法又は動作。●「けいかく」〔作戰計畫〕〔名〕●作戰に關する謀策。●「ち」作戰地〔名〕●敵に對して作戰する地域。●「ち」もくひょう〔作戰目標〕〔名〕●作戰上軍隊の到達すべき目標。

さくせん〔索然〕〔名〕●興味なきさま。●散るさま。

さくせう〔錯綜〕〔名〕くみあはすと。又、入りまじると。

さくたん〔昨旦〕〔名〕きのふのあさ。

さくたん〔朔旦〕〔名〕ついたちのあさ。ついたちのひ。●「ち」朔旦冬至〔名〕●陰曆十一月朔日の恰も冬至に相當すると、二十年に一回遭遇するものなるを以て祥瑞となし、昔時は公卿祝賀の表を上り天皇賞賜を賜されたり、支那に於ける風習の傳はりしものとす。●「ち」の「ち」朔旦旬〔名〕●古昔、朔旦冬至の時、天皇紫宸殿に出御して祝賀を受けさせられ、群臣に宴を賜ひし儀式。

さくちがひ〔作違〕〔名〕●農作のはづれたると。

さくちようけい〔昨朝〕〔名〕きのふの朝。

さくちよう〔昨冬〕〔名〕●去年の冬。

さくちよう〔索道〕〔名〕●「工」かくうさくちよう。

さくちよう〔作得〕〔名〕●田畝の收穫。とりいれ。〔所得〕。●田畝の收穫中より納租したる殘餘の得金。

さくどり〔作取〕〔名〕●徳川時代に、田畠の作毛を全部取得して貢租を納めざると。つくりどり。

さくなげ〔石南花〕〔名〕●「植」さくちよう。〔ちたぎつ〕。

さくなだり〔名〕●谷川の水の激しく落ち来るさま。●「に」落さくんにん〔作人〕〔名〕●製作したる人。●「作」作する人。

さくせい〔鑿井〕〔名〕●鑿床の探究又は石油の汲揚若しくは地質調査等のため、地中に鑿孔を穿つこと。●「鑿井機」〔名〕●鑿井に使用する器械、衝動式と回転式との二種あり。

さくせい〔昨夕〕〔名〕きのふのゆふ。

サクセス〔Success〕〔名〕成功。

さくせつ〔錯節〕〔名〕入りまじりて堅くむすばれたる木の節。●轉じて、混雜して處理しがたき事件。

さくせん〔策練〕〔名〕●軍隊の作戦目標に達する線路。

さくせん〔作戰〕〔名〕●軍隊の敵に對して行ふ戦争の方法又は動作。●「けいかく」〔作戰計畫〕〔名〕●作戰に關する謀策。●「ち」作戰地〔名〕●敵に對して作戰する地域。●「ち」もくひょう〔作戰目標〕〔名〕●作戰上軍隊の到達すべき目標。

さくせん〔索然〕〔名〕●興味なきさま。●散るさま。

さくせう〔錯綜〕〔名〕くみあはすと。又、入りまじると。

さくたん〔昨旦〕〔名〕きのふのあさ。

さくたん〔朔旦〕〔名〕ついたちのあさ。ついたちのひ。●「ち」朔旦冬至〔名〕●陰曆十一月朔日の恰も冬至に相當すると、二十年に一回遭遇するものなるを以て祥瑞となし、昔時は公卿祝賀の表を上り天皇賞賜を賜されたり、支那に於ける風習の傳はりしものとす。●「ち」の「ち」朔旦旬〔名〕●古昔、朔旦冬至の時、天皇紫宸殿に出御して祝賀を受けさせられ、群臣に宴を賜ひし儀式。

さくちがひ〔作違〕〔名〕●農作のはづれたると。

さくちようけい〔昨朝〕〔名〕きのふの朝。

さくちよう〔昨冬〕〔名〕●去年の冬。

さくちよう〔索道〕〔名〕●「工」かくうさくちよう。

さくちよう〔作得〕〔名〕●田畝の收穫。とりいれ。〔所得〕。●田畝の收穫中より納租したる殘餘の得金。

さくどり〔作取〕〔名〕●徳川時代に、田畠の作毛を全部取得して貢租を納めざると。つくりどり。

さくなげ〔石南花〕〔名〕●「植」さくちよう。〔ちたぎつ〕。

さくなだり〔名〕●谷川の水の激しく落ち来るさま。●「に」落さくんにん〔作人〕〔名〕●製作したる人。●「作」作する人。



〔トホルホスクサ〕

さくせい〔鑿井〕〔名〕●鑿床の探究又は石油の汲揚若しくは地質調査等のため、地中に鑿孔を穿つこと。●「鑿井機」〔名〕●鑿井に使用する器械、衝動式と回転式との二種あり。

さくせい〔昨夕〕〔名〕きのふのゆふ。

サクセス〔Success〕〔名〕成功。

さくせつ〔錯節〕〔名〕入りまじりて堅くむすばれたる木の節。●轉じて、混雜して處理しがたき事件。

さくせん〔策練〕〔名〕●軍隊の作戦目標に達する線路。

さくせん〔作戰〕〔名〕●軍隊の敵に對して行ふ戦争の方法又は動作。●「けいかく」〔作戰計畫〕〔名〕●作戰に關する謀策。●「ち」作戰地〔名〕●敵に對して作戰する地域。●「ち」もくひょう〔作戰目標〕〔名〕●作戰上軍隊の到達すべき目標。

さくせん〔索然〕〔名〕●興味なきさま。●散るさま。

さくせう〔錯綜〕〔名〕くみあはすと。又、入りまじると。

さくたん〔昨旦〕〔名〕きのふのあさ。

さくたん〔朔旦〕〔名〕ついたちのあさ。ついたちのひ。●「ち」朔旦冬至〔名〕●陰曆十一月朔日の恰も冬至に相當すると、二十年に一回遭遇するものなるを以て祥瑞となし、昔時は公卿祝賀の表を上り天皇賞賜を賜されたり、支那に於ける風習の傳はりしものとす。●「ち」の「ち」朔旦旬〔名〕●古昔、朔旦冬至の時、天皇紫宸殿に出御して祝賀を受けさせられ、群臣に宴を賜ひし儀式。

さくちがひ〔作違〕〔名〕●農作のはづれたると。

さくちようけい〔昨朝〕〔名〕きのふの朝。

さくちよう〔昨冬〕〔名〕●去年の冬。

さくちよう〔索道〕〔名〕●「工」かくうさくちよう。

さくちよう〔作得〕〔名〕●田畝の收穫。とりいれ。〔所得〕。●田畝の收穫中より納租したる殘餘の得金。

さくどり〔作取〕〔名〕●徳川時代に、田畠の作毛を全部取得して貢租を納めざると。つくりどり。

さくなげ〔石南花〕〔名〕●「植」さくちよう。〔ちたぎつ〕。

さくなだり〔名〕●谷川の水の激しく落ち来るさま。●「に」落さくんにん〔作人〕〔名〕●製作したる人。●「作」作する人。

さくせい〔鑿井〕〔名〕●鑿床の探究又は石油の汲揚若しくは地質調査等のため、地中に鑿孔を穿つこと。●「鑿井機」〔名〕●鑿井に使用する器械、衝動式と回転式との二種あり。

さくせい〔昨夕〕〔名〕きのふのゆふ。

サクセス〔Success〕〔名〕成功。

さくせつ〔錯節〕〔名〕入りまじりて堅くむすばれたる木の節。●轉じて、混雜して處理しがたき事件。

さくせん〔策練〕〔名〕●軍隊の作戦目標に達する線路。

さくせん〔作戰〕〔名〕●軍隊の敵に對して行ふ戦争の方法又は動作。●「けいかく」〔作戰計畫〕〔名〕●作戰に關する謀策。●「ち」作戰地〔名〕●敵に對して作戰する地域。●「ち」もくひょう〔作戰目標〕〔名〕●作戰上軍隊の到達すべき目標。

さくせん〔索然〕〔名〕●興味なきさま。●散るさま。

さくせう〔錯綜〕〔名〕くみあはすと。又、入りまじると。

さくたん〔昨旦〕〔名〕きのふのあさ。

さくたん〔朔旦〕〔名〕ついたちのあさ。ついたちのひ。●「ち」朔旦冬至〔名〕●陰曆十一月朔日の恰も冬至に相當すると、二十年に一回遭遇するものなるを以て祥瑞となし、昔時は公卿祝賀の表を上り天皇賞賜を賜されたり、支那に於ける風習の傳はりしものとす。●「ち」の「ち」朔旦旬〔名〕●古昔、朔旦冬至の時、天皇紫宸殿に出御して祝賀を受けさせられ、群臣に宴を賜ひし儀式。

さくちがひ〔作違〕〔名〕●農作のはづれたると。

さくちようけい〔昨朝〕〔名〕きのふの朝。

さくちよう〔昨冬〕〔名〕●去年の冬。

さくちよう〔索道〕〔名〕●「工」かくうさくちよう。

さくちよう〔作得〕〔名〕●田畝の收穫。とりいれ。〔所得〕。●田畝の收穫中より納租したる殘餘の得金。

さくどり〔作取〕〔名〕●徳川時代に、田畠の作毛を全部取得して貢租を納めざると。つくりどり。

さくなげ〔石南花〕〔名〕●「植」さくちよう。〔ちたぎつ〕。

さくなだり〔名〕●谷川の水の激しく落ち来るさま。●「に」落さくんにん〔作人〕〔名〕●製作したる人。●「作」作する人。

さくせい〔鑿井〕〔名〕●鑿床の探究又は石油の汲揚若しくは地質調査等のため、地中に鑿孔を穿つこと。●「鑿井機」〔名〕●鑿井に使用する器械、衝動式と回転式との二種あり。

さくせい〔昨夕〕〔名〕きのふのゆふ。

サクセス〔Success〕〔名〕成功。

さくせつ〔錯節〕〔名〕入りまじりて堅くむすばれたる木の節。●轉じて、混雜して處理しがたき事件。

さくせん〔策練〕〔名〕●軍隊の作戦目標に達する線路。

さくせん〔作戰〕〔名〕●軍隊の敵に對して行ふ戦争の方法又は動作。●「けいかく」〔作戰計畫〕〔名〕●作戰に關する謀策。●「ち」作戰地〔名〕●敵に對して作戰する地域。●「ち」もくひょう〔作戰目標〕〔名〕●作戰上軍隊の到達すべき目標。

さくせん〔索然〕〔名〕●興味なきさま。●散るさま。

さくせう〔錯綜〕〔名〕くみあはすと。又、入りまじると。

さくたん〔昨旦〕〔名〕きのふのあさ。

さくたん〔朔旦〕〔名〕ついたちのあさ。ついたちのひ。●「ち」朔旦冬至〔名〕●陰曆十一月朔日の恰も冬至に相當すると、二十年に一回遭遇するものなるを以て祥瑞となし、昔時は公卿祝賀の表を上り天皇賞賜を賜されたり、支那に於ける風習の傳はりしものとす。●「ち」の「ち」朔旦旬〔名〕●古昔、朔旦冬至の時、天皇紫宸殿に出御して祝賀を受けさせられ、群臣に宴を賜ひし儀式。

さくちがひ〔作違〕〔名〕●農作のはづれたると。

さくちようけい〔昨朝〕〔名〕きのふの朝。

さくちよう〔昨冬〕〔名〕●去年の冬。

さくちよう〔索道〕〔名〕●「工」かくうさくちよう。

さくちよう〔作得〕〔名〕●田畝の收穫。とりいれ。〔所得〕。●田畝の收穫中より納租したる殘餘の得金。

さくどり〔作取〕〔名〕●徳川時代に、田畠の作毛を全部取得して貢租を納めざると。つくりどり。

さくなげ〔石南花〕〔名〕●「植」さくちよう。〔ちたぎつ〕。

さくなだり〔名〕●谷川の水の激しく落ち来るさま。●「に」落さくんにん〔作人〕〔名〕●製作したる人。●「作」作する人。



〔子拍物〕

に充てられて各自特別の名稱ありし田。——かんとう
【雑色官稻】(名) ぐんたう(郡稻)。

【雑紙鞍馬】(名) 鞍馬の一種、紙片を撒布して鞍馬の道筋を示し、中に一條の鞍馬を設けて其終點を決定し、騎手の其道筋をさがしたと取りて進出し、早く決勝點に達したるを勝とす。

【雑種】(名) 他、(四)「する」の敬語。

【雑種】(名) いろいろな種類の。種族の異なる雄雌・牝牡の間に生れたるもの。あひこ(混血)。——が

【雑種貸】(名) 【法】國庫の貸附金にして、大蔵省の所管事務として整理せらるる、返納期限の一定せるもの。——ぜ

【雑種税】(名) 【法】地方税の一、商工業以外の營業に課する諸種の税、即ち理髮人・劇場・舟・車・馬等に課するものなど。——ち【雑種地】(名) 【法】田賦・宅地山林牧場・原野・源泉・池沼以外の有租地。

【雑収入】(名) 種々雑多の收入。

【雑出】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし

【雑出車】(名) ちらし



【雑出車】

【雑魚】(名) 【動】魚類の魚、體幅は高くして薄く、腹部鋭角をなし、下顎突出す、鱗は薄くして剝落し易し、背部緑色にして腹部銀白色、身長四五寸、内海の灣内に多く、食用に供せらる。——し。



【雑魚】

【雑費】(名) いろいろなことかき費用。

【雑筆】(名) 取紙又は膠筆(毛筆)を巻きて筆の如くつくりたるもの、墨筆をえがくに用ふ。——が

【雑筆】(名) 西洋畫の一種、蛋紙に鉛筆又は「チョーク」にて軽く輪郭を取り、其粉末を濃茶に付けて置き、或は鉛筆又は「チョーク」にて直ちに形體を描き、墨筆を用ひて塗りつけ、明暗種々の色調を表はしたる畫、肖像畫を寫眞の如く仕上げるに最も適す。

【雑筆】(名) 種々の事を記したる筆録。

【雑人】(名) かりうと。さつを。——の【雑人】(名) 【動】「ゆ」に冠する枕詞。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑布】(名) いろいろな布。

【雑奉行】(名) 室町時代に、將軍の部大名の第に赴きし際、其部にて警備に關する諸雜費を辦ずるためにおかれし臨時の職名。

【雑抄】(名) 種々なる記録もののかきぬき。

【雑食】(名) 異なる種類のものを取りまぜて食すること。【動】動植物を混合すること。——る【雑食類】(名) 【動】動植物を混合する生物。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。



【雑】

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

【雑】(名) いろいろな。

こんぶようち(座頭根性) (名) うたがひ深くそねみ深き根性。——ずまうち(座頭相撲) (名) 百人を集めて取らする相撲、昔時は江戸などにて見世物としてこれを行ひ、頗る滑稽のものなりきといふ。



【座頭相撲】

さどろあより(坐道場) (名) 佛に道場ありて、佛法を説き又は修行を積む事。サドカイ(Sadducan) (名) 政西紀前二世紀頃にユダヤ國民の間に起こりし黨派、パリサイ教徒に對抗して立てる「ユダヤ」教中の頑強なる政府黨。

さとし(説) (名) さとすと。説諭。おつげ。神託。さとし(聴) (形) 才智多し。さとしはやし。かしこし。さかし。さとし。さとし。

さどす(説) (他) さし(四) 言ひ聞かせて會得せしむ。さどす(説) (他) さし(四) 言ひ聞かせて會得せしむ。さどす(説) (他) さし(四) 言ひ聞かせて會得せしむ。

さどた(佐渡代官) (名) 佐渡奉行の前稱。さどつ(噴) (名) 清樂用の吹奏樂器、喇叭状をなせる所と吹口とは金屬製にして、管は木にて製し七孔あり、形恰も鈴鐺などの吹く太平鼓(たうこ)に類するもの、もとは軍中用の樂器といふ。



【つとさ】

さどぬ(佐渡布) (名) 佐渡國より産出する。さどぬ(佐渡布) (名) 佐渡國に産する矢竹。さどは(佐渡) (自) さど(四) さど(五) の敬語。さどひ(佐渡) (名) さどとぶる。さどひ(佐渡) (名) さどとぶる。さどひ(佐渡) (名) さどとぶる。

さどぶき(悟) (名) さどとと。知る。さどぶき(悟) (名) さどとと。知る。さどぶき(悟) (名) さどとと。知る。

さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。

さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。

さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。

さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。

さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。

さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。

さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。さどろ(悟) (名) さどとと。知る。



【かみ】

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。さなき(接) (名) さうでなくとも。さらぬだに。

【苗鳥】(名) 【動】ほととぎす。さなみ(細波) (小波) (名) ささなみ。ささらなみ。みくづせくやなせのこほりあて。

さなみ(座並) (名) 席順。席次。さなみ(座並) (名) 席順。席次。さなみ(座並) (名) 席順。席次。

さなみ(細鳴) (名) ちひさき音のする。さなみ(細鳴) (名) ちひさき音のする。さなみ(細鳴) (名) ちひさき音のする。

さなみ(座次) (名) さなみ。席順。さなみ(座次) (名) さなみ。席順。さなみ(座次) (名) さなみ。席順。

さなみ(座人) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座人) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座人) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。さなみ(座) (名) 徳川時代に、金座の世襲役員。

さばい

蘭科の多年生草本、山中の湿地に自生す、地下に淡緑色の球根あり、これより一葉と一花茎とを抽出す、葉は線形にして尖頭全縁、其基部は花茎を擁す、花茎は高さ数寸、六月頃葉頭に一花を著く、花は紫紅色にして點頭す。――をぐるま



【鮭】

さば(接)「さらば」の略、いざや一法にかへつる命と思はん。さば(接)「さらば」の略、いざや一法にかへつる命と思はん。

さばい

さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。有主に代はりて、貸地又は貸家などの取扱をなす。さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。

さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。有主に代はりて、貸地又は貸家などの取扱をなす。さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。

さばい

さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。有主に代はりて、貸地又は貸家などの取扱をなす。さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。

さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。有主に代はりて、貸地又は貸家などの取扱をなす。さばい(差配)一名(名)手分して事務の取扱をなす。



【くばさ】

さば

さば(散飯)一名(名)日常の供膳の飯の上部をとりて、鬼神に供へ、鬼に施すもの。一たよやかにとりて佛前に備へ。



【根】

さば(散飯)一名(名)日常の供膳の飯の上部をとりて、鬼神に供へ、鬼に施すもの。一たよやかにとりて佛前に備へ。

さば

さば(散飯)一名(名)日常の供膳の飯の上部をとりて、鬼神に供へ、鬼に施すもの。一たよやかにとりて佛前に備へ。

さば(散飯)一名(名)日常の供膳の飯の上部をとりて、鬼神に供へ、鬼に施すもの。一たよやかにとりて佛前に備へ。

さば

さば(散飯)一名(名)日常の供膳の飯の上部をとりて、鬼神に供へ、鬼に施すもの。一たよやかにとりて佛前に備へ。

さば(散飯)一名(名)日常の供膳の飯の上部をとりて、鬼神に供へ、鬼に施すもの。一たよやかにとりて佛前に備へ。